

第32回 こがねいパレット記録集

- フィンランド流 -
自分らしく生きるヒント
暮らし方、働き方、子育て



平成8年12月3日
告示第99号

男女平等都市宣言

私たちは、誰もが人間として尊ばれ、また、自らの個性にあった生き方を自由に選択できる社会を願っています。

そのため、個人の尊厳と両性の平等を基本理念として社会的、文化的、歴史的な性差を排し、職場、家庭、学校、地域などすべての領域での真の平等をめざして、ここに「男女平等都市」を宣言します。

- 1 私たちは、人権を尊重し、互いの性を認め支えあい、いきいきと充実した人生がおくれる男女平等の「小金井市」をめざします。
- 1 私たちは、一人ひとりが共に個性や能力を発揮し、社会のあらゆる分野に男女が共同参画できる「小金井市」をめざします。
- 1 私たちは、男女が共にかげがえのない地球の環境を守り、平和と平等の輪を世界へ広げる「小金井市」をめざします。

第32回こがねいパレット記録集

平成31年(2019年)3月

発行 小金井市
編集 第32回こがねいパレット実行委員会
企画財政部企画政策課男女共同参画室
〒184-8504 小金井市本町6丁目6番3号
電話 042(387)9853

目 次

第32回こがねいパレット当日配付物等	1
実行委員長のあいさつ	4
講演「フィンランド流 自分らしく生きるヒント ～暮らし方、働き方、子育て～」	5
質疑応答 ～質問カード・ホワイトボードを使った参加型～	22
こがねいパレットに賛同する団体（展示）のご紹介	27
アンケート結果	35
実行委員の感想、実行委員会の開催記録	42
「こがねいパレット」開催の足跡	45

第32回こがねいパレット当日配付物等

ポスター・ちらし

参加無料／保育・手話通訳あり

第32回 こがねいパレット

- フィンランド流 -
自分らしく生きるヒント
 暮らし方、働き方、子育て

2018.11.11 (日)
 13:30 ▶ 15:45 開場 13:00

こがねいパレット賛同団体の展示もあります

講師 坂根シルクさん
 フィンランド・ヘルシンキ出身、3～12歳まで日本で過ごし、フィンランドへ帰国、1985年に再来日し、在日フィンランド企業やフィンランド政府機関に勤務、その後はフリーの通訳翻訳家兼フィンランド語講師として活動。2011年からは国立大学法人東京農工大学リーディング大学院特任准教授として勤務。文科系タレントとしてメディアでも活躍中。1男1女の母。

こがねいパレットは男女がともにいきいきと暮らせる社会をめざして、市民実行委員により企画・運営しています

定員 90名、当日先着順 お子さんの同席受講もできます

会場 市民会館 榊え木ホール(小金井市商工会館3階)

保育 1歳～未就学児、先着6名、要事前申込
 10/1より電話またはFAXにて受付開始

問合せ・
 企画政策課男女共同参画室
 保育申込先
 TEL 042-387-9853
 FAX 042-387-1224

主催：小金井市 企画・運営：第32回こがねいパレット実行委員会 ※各組を配合しています

当日配付資料と
後半に使用した質問カード



会場入口



講演会場の様子



質疑応答の様子



第32回こがねいパレット

- フィンランド流 -

自分らしく生きるヒント

暮らし方、働き方、子育て



2018. 11. 11 (日)

13:30 ▶ 15:45 開場 13:00

市民会館萌え木ホール

主催 小金井市

企画/運営 第32回こがねいパレット実行委員会

☆こがねいパレットとは

市民と市が一緒に行う男女共同参画推進のための事業で、男女がともにいきいきと暮らせる社会をめざして、市民実行委員により企画・運営しています。(毎年4月頃に、市報・市ホームページ等で新たに実行委員を募集します)

こがねいパレットの名前は、「いろいろな色を持つ、いろいろな人たちが自分の持つ色を大切に、出会い、交流し、それぞれの色を認めあい、ときには、いくつかの色がまざりあって、新しい色を織りながら誰もが楽しく幸せに暮らせる豊かな社会をつくりだそう」との思いを込めて付けられました。

当日配付 プログラム (裏)

プログラム

1 開会挨拶 (午後1時30分~40分)

- ・第32回こがねいパレット実行委員長
- ・小金井市長 西岡 真一郎

2 講演会 (午後1時40分~午後3時) 前半

フィンランド流 自分らしく生きるヒント
~暮らし方、働き方、子育て~

3 休憩 (午後3時~15分)

※後半の質疑応答で使用する『質問カード』をご記入の上、ご提出ください。

4 質疑応答 (午後3時15分~45分) 後半

5 閉会 (午後3時45分)

★講師プロフィール

坂根 シルック さん

フィンランド・ヘルシンキ生まれ。3歳で初来日し、幼少期を大分県で過ごす。1975年、小学校卒業後にフィンランドに帰国。1985年に再来日し、複数の在日フィンランド企業及びフィンランド政府機関に勤務。2005年からフリーのフィンランド語通訳翻訳家兼フィンランド語講師として活動。2012年に国立大学法人東京農工大学リーディング大学院特任准教授となられ、文科系タレントとしてメディアでも活躍中。1男1女の母。

★こがねいパレットに賛同する団体 (五十音順)

アンファン (保育サポーターグループ)	聞いてきいての会
小金井子育て・子育て支援ネットワーク協議会	NPO法人 こがねい子ども遊ぶパーク
小金井市子ども家庭支援センター ゆりかご	小金井市子ども文庫サークル連絡会
公益財団法人 小金井市シルバー人材センター	こがねい女性ネットワーク
小金井玉川上水の自然を守る会	NPO法人 ファミリーステーション・SACHI
マザーズハローワーク立川	子育て支援&多世代交流サロン みんなの家
NPO法人 木馬の会 小金井おもちゃライブラリー	NPO法人 らくビット
企画政策課 男女共同参画室	

実行委員長のあいさつ

実行委員長 金ヶ江 博紀



みなさま、こんにちは。「第32回こがねいパレット」実行委員長を務めさせていただいております、金ヶ江です。どうぞよろしくお願いいたします。

「こがねいパレット」という名称は、いろいろな色を持つそれぞれの人が、自分の持つ色を大切に、出会い、交流して欲しいとの願いで名付けられました。男女がいきいき暮らせる社会をめざして、今年は9人の市民実行委員が、約半年間かけて企画から実際の運営まで、何度も話し合いを重ねて本日の講演会にいたりしました。

今年は、フィンランドのご出身で、日本とフィンランドの生活を経験してこられ、メディア等でもご活躍されている坂根シルックさんに講演をいただきます。

講演では、フィンランドと日本の、暮らし方、働き方、子育てなどの違いについてお話いただき、その中からみなさまそれぞれが感じとったことが、自分らしく生きるヒントになればと思います。

最後になりましたが、講演会の講師をお引き受けいただきました坂根シルックさんに改めてお礼を申し上げますとともに、ご多忙の中、ご出席いただきましたみなさま、また展示にご協力をいただきました各団体のみなさまにお礼を申し上げ、私のあいさつとさせていただきます。

第32回こがねいパレット

フィンランド流 自分らしく生きるヒント 暮らし方、働き方、子育て

講師：坂根 シルック

【自己紹介】

皆さん、こんにちは。今日は、すごく天気もいいにもかかわらず、お集まりいただきありがとうございます。今日はもしかしたら予定を変更されて、こちらに来られない方も結構いらっしゃるのではないかなと実はどきどきしながら来たんですが、こんなに大勢の皆さんが待っていてくださったというのは、本当にうれしく思います。

今紹介をいただきましたように、私は日本育ちです。幼稚園と小学校が日本だったんですが、その大半を九州の大分で暮らしました。地元の幼稚園と小学校に行っていましたので、小さいころは本当に大分の方言しかしゃべれませんでした。当時は外国人が、東京にも少なかったんですが、地方に行ったらもっと少なかったんです。そういう時代に日本人の友達と一緒に遊び、自分も日本人になった気持ちになり、小学校を卒業するまで日本にいましたが、3人兄弟で一番上の私が小学校を卒業するタイミングで、私たちの家族はフィンランドに帰ることになりました。帰国子女の子どもさんの多くが感じることだと思うんですが、親にとっては自分の国に「帰る」でも、私たち子どもにとっては、自分が育った国が自分の国にという感覚があるので、「行く」という感じなんです。自分の遺伝子とか、先祖がいる国なんです。自分の国というふうに感じられるようになるまで、私も結構時間がかかりました。

小学校を卒業するときから、実は、日本に帰ってくるのが私の夢で、小学校の卒業文集にも、将来の夢というのが「通訳になって日本に帰ってくる」ということを書いていました。それほど私にとっては日本に帰ってくるということが、もう全ての目的で、それ以上何かになりたいとかではなくて、手段は何でもよかったんです。日本に帰って来られればいいということで、23歳のときに1人で日本に帰ってきました。2年間だけだったのですが、フィンランドと日本の合弁会社で契約社員として働いていま



して、ただ、その当時、1985年なんです。女性がまだ活躍できる時代ではなくハラスメントの意識がまだ低いなかで、ちょっとこれはあまりにもフィンランドの社会と違い過ぎて耐えられないなという思いを感じつつも、結婚する相手と出会ってしまったことで結局日本に残るという一大決心をして、それで日本に残ることになりました。

もうかれこれ、幼少期を合わせると40年ぐらい日本にいたので、本当に私みたいな、フィンランドにあまり住んでいない人間がフィンランドについて語っても大丈夫なのかなと時々自分でも思うんですが、できるだけフィンランド系の企業というか、フィンランド人がいる環境に20年間おりましたし、その間ずっとフィンランドとつながりがありました。また、子どもたちと2年間フィンランドで生活をしたり、子どもは現地校に通ったりする中で、日本とフィンランドのいろいろな違いを感じとれるようになりました。

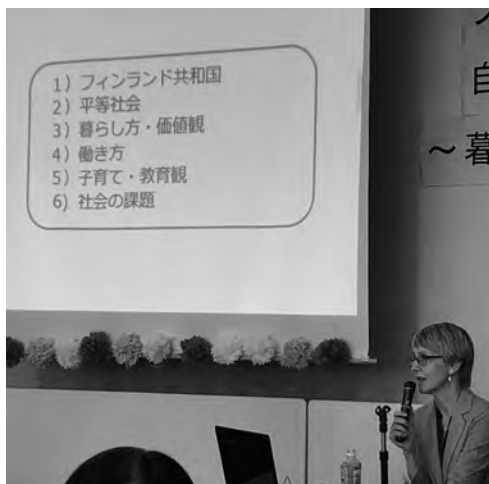
今日は、このような機会をいただけたことをまず本当にありがたく思います。フィンランドのことを紹介させていただけるという機会が、最近とても増えているんですが、メディアでフィンランドがテーマになるようなときというのはいいことしか話さないんです。フィンランドが、本当に天国のような国というふうに思って、フィンランドに行かれる日本

人もいらっしゃる、申し訳ないなと思うんです。どこの国にも必ずその国の課題があって、よそから見たら、隣の芝生が青く見えるというようなそういうことは多々あると思います。

そして、そういうことを話してほしいという機会が増えてきたんですが、毎回申し上げるのが、フィンランドが素晴らしい国というお話を今日はするつもりはありません。あくまでも私が日本で、ずっとフルタイムで子育てしながら働いてきて、外国人として日本で生活をしてきた中で、感じ取ってきたことをお話しさせていただきたいと思います。社会が違えば価値観が違って、文化が違って、いろいろなことが違ってくるんですが、でも、もう少しこういうふうにできたら、楽になるかもしれないなというような声を結構いただいたりしましたので、今日はあくまでも私がどう感じているか、私から見たフィンランドと日本の違い、そういうところに焦点を当てながら、お話しさせていただこうと思います。どうぞよろしく願いいたします。

そして、今日は、資料を特に配付しておりません。それは、なぜかといいますと、皆さんそれぞれが、お話を聞いていて、どこから「自分もこういうこと使えるかもしれないな」とか、何か思ったことをご自身でメモしていただいたほうが記憶に残るのかなというふうに思っていて、勝手にそういうふうにさせていただいております。どうぞご了承ください。

今日の簡単な内容なんですが、日本では、フィンランドの社会を、教育のことだったり、子育てだったり、男女共同参画、女性が働きやすい社会ということなどに、注目されています。日本だけでなく、世界のいろいろなところで、小さな国なのにどうし



てこんなことができるんだろうという話はたくさんあるんですが、それをまず理解していただくために、国の背景、歴史についても触れさせていただきたいと思います。簡単にフィンランドの歴史について、そしてどういう背景から平等社会になっていったのか、そして、暮らし方、価値観、働き方、子育て、教育観、最後に社会の課題についてお話を進めていきたいと思っています。



【フィンランド共和国について】

■フィンランドの位置

フィンランドのことをフィンランド語でスオミ (Suomi) と言います。フィンランドの国旗は、湖と空の青さ、そして雪の白さをあらわしているというふうに言われています。

フィンランドに行かれたことある方ってというのはどれぐらいいらっしゃいますか。いらっしゃいますね。うれしいです。ありがとうございます。行かれたことがない方も、フィンランドが大体どこら辺にあるのかというのは、最近はお存じの方も増えてきてうれしい限りなんですが、いつもと違うアングルで位置関係を見てみたいと思います。



まずここに北極圏があります。今、氷が解けてきて、将来どういうふうになっていくのかなということがかなり注目されていますが、フィンランドは国土の3分の1が北極圏に面しています。そして、実は日本とフィンランドの間には1つしか国がありません。ロシアだけです。ロシアが大きいので、すご

くフィンランドが遠くにあるイメージがあると思うんですが、ロシアさえ越えてしまえばフィンランドなんです。フライトで、実は直行便がもう30年以上前から飛んでいまして、この直行便で行ったら本当に9時間半、10時間しないぐらいでフィンランドに着きます。

ソ連の時代は、ソ連の領土の上を飛ばないように、ずっと北極からベーリング海峡を通ってくるというすごい遠回りで13時間ぐらいかかっていたんですが、ソ連が崩壊してロシアになってからは、ロシアの上を飛べるようになって、今は一番近いヨーロッパの国なんです。実は、大体ヨーロッパに行くときというのは、ほとんどフィンランドの上空をかすってほかの国に行くので、そういった意味では、もし皆さんヨーロッパに行かれるときには、ちょっと窓からのぞいてみてください。フィンランドが見えるかもしれません。

■フィンランドの歴史

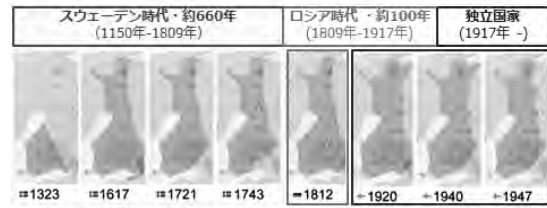
実はフィンランドは1150年まで、人は住んではいたんですが、国にはなっていませんでした。それが、隣のスウェーデンが1150年ぐらいから少しずつフィンランドの領土を自分のところの領土にしていきました。そして1809年までの約660年間、ずっとフィンランドはスウェーデンの領土になっていました。

1809年にロシアとスウェーデンがフィンランドの領土をめぐる戦争をしまして、今度はロシアの領土になってしまいロシア時代が約100年間続きました。

1917年、ロシア革命を機にフィンランドが独立宣言をしました。独立国家になるわけなんですけど、独立国家になった後もしばらく戦争が続きます。

まずは、ちょっと地図を見ていただきますと、1920年頃が実はフィンランドの領土が一番広いんです。これが最終的なフィンランドの地図なんですけど、フィンランドの乙女というふうに、スカートををはいている乙女という形に見えます。それが、1940年頃まで腕が2本あり、スカートの裾も長かったのがどんどん切れていって、最終的にこのような形になるんですが、まだロシアのころの影響が残ってまして、1818年、5か月間だけなんですけど内戦が起きます。

☆ 歴史: 国境から見る隣国との関係



- ◆ ロシア革命を機に1917年12月6日独立を宣言 (去年で100周年)
- ◆ 1918年1月~5月 内戦
“ロシア派”(赤軍) vs. 政府軍(白軍)-ドイツとスウェーデンが協力
- ◆ 1939-40 冬戦争 (vs. ロシア)
- ◆ 1941-44 継続戦争 (vs. ロシア) (第二次世界大戦)
- ◆ 1944-45 ラップランド戦争 (vs. ドイツ) (第二次世界大戦の終末)

このとき、ロシア派の赤軍と、ドイツとスウェーデンが協力していた白軍が対立しまして、かなり残酷なことがたくさん国内で行われてきました。これは実はフィンランドの歴史において、みんなが認めたくないことでして、あまり歴史でも触れてこられませんでした。そして、どういう残酷なことが行われていたかということも、ずっと隠されてきていたんですが、それが少しずつ表に出てきました。こういう暗い過去が、いろいろな社会問題につながっているということが、最近の研究でわかってきたので、歴史の部分というのはやっぱり否定してはいけないうことなんだなというふうに、多くの人が感じるようになってきたんです。

そして、国内が落ち着いた頃1年間くらいだけなんですけど、その後継続戦争という冬戦争の続きみたいな戦争がもう1回ありまして、これが第2次世界大戦のフィンランドの戦いへとつながっていくわけなのです。

フィンランドは、ロシアを選ぶかドイツを選ぶか本当に大変な選択だったんですが、結果としてドイツ側につきました。最終的に第2次世界大戦の終末というのは、フィンランドではラップランド戦争というんですが、ドイツ人が撤退していったときに、ラップランドを完全に燃やしてしまって大変な事態になってしまったんです。それで1945年に第2次世界大戦が終わり、フィンランドは領土の一部を隣の2つの国に持っていかれていました。フィンランドの東側に大きな湖があるんですが、今もロシアの領土ですが私の父も実はこのエリアの出身なんです。

■どんな国？

フィンランドは共和国ですが、ほかの北欧の国のスウェーデン、ノルウェー、デンマークは全部王国なんです。

フィンランドの国土は結構ヨーロッパの中でも大きな方でして、日本を少し小さくしたぐらいの面積ですが、国土の7割が森林。そして、何と1割が湖です。湖の数は19万ぐらいあるのではないかと思います。もし皆さんよかったら今日おうちにお戻りになってから、地図で見てみてください。本当にたくさん湖があります。

人口が、何と550万人しかいません。東京の半分もいません。広い国土に北海道の人口くらいしかないのです。そして、首都のヘルシンキも人口が60万人ぐらいしかいませんので、首都と言ってもかなり小さな町です。

ご存知のように高い税率が豊かな福祉国家を可能にしているんですが、消費税が現在は24%、そして、基本医療は成人になる18歳まで無料ですし、学費は大学までかかりません。学費は無料なんですけど、教材費などは高校から先は買わないといけなくて、教材費は結構それなりにかかるので、全く無料というわけではありませんが、誰でも平等に大学まで行くチャンスがあるというところが、フィンランドが力を入れているところです。

公用語はフィンランド語で、9割ぐらいの人がフィンランド語を話します。その他の5、6%はスウェーデンの統治下にあった時代に、スウェーデンからフィンランドにそのまま生活することを選んだ人たちのスウェーデン語、それからラップランド地方に住んでいる、原住民のサーミの人たちが話すサーミ語も正式な公用語になっています。

国教がキリスト教なんですけど、ドイツの北部から北欧は全部福音ルーテル協会というルター派なんです。ルター派は、キリスト教の中でもとても平等な、人は皆平等だということを教えている宗派なんですけど、そういったことや、国民がとても少ないということ、それから、国がまだ去年で独立して100周年なので、比較的国家として若いといったことが、フィンランドの社会がいろいろな新しいことに取り組み、社会が変化していくことを可能にした背景にあるのではないかなというふうに私は思います。

日本でもフィンランドのことを随分知られるようになりました。30年前は何度フィンランドと言っても、なかなかフィンランドという言葉覚えていただけなかったんですが、今はフィンランドと言ったら「ああ、フィンランド、いい国ですよ」とい

うふうに、そんなにフィンランドのことを知らない皆さんも、何となくイメージがとていいみたいでうれしい限りです。フィンランドのイメージと言ったらこんなところでしょうか。ムーミンとか、サンタクロース、キシリトール、あとサウナ。皆さん、ご存じでしたか？ サウナという単語はフィンランド語です。そして、マリメッコなどのデザイン、多くの方がフィンランドのデザイン商品などを使っているようですね。

それから、フィンランドは、幸福度調査や学力調査、女性の社会進出とか、さまざまな調査で世界のトップに入るんですが、フィンランドだけではなくて、北欧の国は大体どこもいつも入ります。いくつか紹介させていただきますと、去年、世界幸福度ランキングで1位。実はこれ、フィンランド人は全然納得ではなかったんです。自分たちそんなに幸せじゃないよ。何で1位なのって。そこもちょっと国民性をあらわしていると思います。あと、お母さんに優しい国ということでも、去年は1位に選ばれました。それから、ジェンダーギャップ指数と報道の自由度ランキングが、去年は3位でした。報道の自由度ランキングは、過去20年ぐらいほとんどずっと1位だったんですが。比較的誰が何を発言しても大丈夫という国なんです。また、IT技術がとても高く、IT競争力ランキングというのも、2016年のデータですが2位になっています。

それから、国として、さまざまな新しい取組や政策や、独自のシステムを開発してきているということなんですよけれども、スタートアップ企業ですとか、さまざまなイノベーションをフィンランド人が起こしています。



■フィンランドと日本の共通点

実は日本との共通点もいろいろあります。これは、個人的に好きな共通点なんですけど、まず森が多いということ。フィンランドで長年、フィンランドの木材で住宅を造っている会社があるんですが、その会社に教えていただいた情報なんですけど、世界一森の割合が多いのがフィンランドで71%、2位がスウェーデンで70%、3位が日本で69%ということで、この3か国が、国土のうち森の割合が多いそうです。森の雰囲気はちょっと違うんですが、フィンランドは北海道みたいな感じですね。長野とか白樺が多かったりするので、そのようなイメージを持っていただければと思います。ヨーロッパに行きますと、石の建物が多い地域もたくさんありますけれども、フィンランドは伝統的には木造建築です。

それから、森の恵みをいただくということ。日本だったら山菜だったりしますが、フィンランドはきのこもたくさん採りますが、ベリー類が多いです。フィンランドではそんなに果物は採れないんですが、ベリーはたくさん採れます。

それから、自然は大切にしますね。自然を楽しむということ。

また私が好きな共通点が、沈黙を好むということ。実はフィンランド人は世界で一番沈黙を好む国民だというふうに言われています。友達と一緒にいても、ずっとしゃべっているわけではないんです。結構静かな時間が流れています。どっちも何も言わない、しゃべらない。それはそれで、何か一緒にいる時間をそれぞれがかみしめているというか、居心地がいいというふうに感じれば、別にずっとしゃべってなくても大丈夫なんです。

フィンランドの有名な映画監督で、アキ・カウリスマキという監督がいるんですが、この監督さん、実は小津安二郎監督が大好きでして、カウリスマキ監督の最新の映画が去年日本でも上映されましたが、結構日本マニアというか、おもしろおかしく日本に関係するようなことが出ていたりするのです。二人とも映画の作りが似ていまして、例えば小津監督の東京物語とかほとんど会話がないう静かな時間が流れますが、カウリスマキの映画もあまり台詞がないんです。

それから、心を静めるということ。これも日本だったら茶道とか華道、日本庭園などがあると思うんで

すが、私たちフィンランド人は、わりと自然の中に行って、ぼつんとそこにいて、その静かな環境で英気を養うというか、心を静めるということをします。

最近フィンランドで話題になって、英語にも日本語にも訳されているフィンランド人の憂鬱について書いているものがあるんですが、これにももしかしたら皆さんにも共通するものがあるのかなというふうに思います。例えば、マンションでおうちから出ようと思ったときに、同じタイミングでお隣さんが出てきたことに気づいたときに、今出ちゃうと何か挨拶しなきゃいけないと面倒かなと、ちょっと待ってしようと思います。あと、エレベーターに知らない人が乗ってきて、その知らない人と2人きりでずっと乗っているっていうのは、結構フィンランド人にとっては憂鬱なんです。誰も、もちろん何も言葉は交わしませんが、早くドア開いてくれないかなと思ったりします。あと、バスに乗ったときに、相席に座るのがあまり好きではないので、窓側の席が取られてしまったら、もう座るところがないというふうに感じたりします。

あとは、自分自身について、褒められるとすごく嫌なんです。自分を褒められたときに、「もういいから、いやいやいや、そんな大したことないから」っていうふうに、自分を褒められるっていうのは、特に昔の人は嫌がりますね。

あと、今日もそうかと思いますが、いろいろ質問したくても、みんなの前で手を挙げるのが苦手で、発言したくないなっていう方がいらっしゃるかもしれません。これもフィンランド人の典型です。こういった会場も、大体後ろの席から埋まっていて、前が空きます。これも日本人と共通しているかなと思います。私がアメリカで、フィンランド系の大きな世界的企業で働いていたときに、アメリカ人の講



師が来て、いろいろ研修を受けたりするんですが、アメリカ人は前からどんどん席を埋めていって、どんどんみんな発言して質問します。ところが、フィンランド人と日本人が一番多かったその会社の研修は、みんな後ろから席が埋まっていって「はい、じゃあみんな何か聞くことありますか」と言ったらみんな下を向いて、そのアメリカ人の講師が「日本人とフィンランド人ってすごく似ているのですね」って驚かされていました。本当にそういうところ似ていて、あまり自分を表に出したくないし、どちらかという、気づかないでいてもらいたいところがあります。



【(男女) 平等社会】

男女に“()”を入れた理由があります。それをこれからお話していく中で、皆さんに気づいていただけたらと思います。

■男女平等な社会

先ほど紹介しましたように、世界にはもっと戦争のある国はたくさんあると思うんですが、フィンランドは比較的戦争というものに尾を引いていて、戦争が多かったことで、男性が戦場にいる間、女性たちが工場で武器を作ったり、農作業をやったり、実際に社会を動かしていたわけなんです。もともと国民が少ない中で、男性たちがいなくなるということは、女性が頑張るしかなく、極寒の地域で生活するということはそれなりに強くならざるを得ない部分はあるんですが、こういった背景が女性を必要とされるようになったということに関係しているんじゃないかと思います。

それから、実は1906年まで、一部の人がしか選挙権がありませんでした。スウェーデンから来た貴族、教職者や教養のある人たちだけに限られていました。それが1906年、国民全員に選挙権を与えるということがきっかけで、フィンランドの女性は選挙権、それから、被選挙権を同時に得ました。両方の権利を得たということでは、フィンランドの女

性が世界で最初だったんじゃないかというふうに思います。

それから、第2次世界大戦で敗戦国になったことで、多額の借金をロシアに返済しなければならず、1960年代から社会がどんどん工業化し、その工業化とともに女性も外で働くようになっていきました。

同じころ、1960年代ぐらいに、今度は国がだんだんと男女の平等政策というものを進めていきました。フィンランド型の社会福祉国家の基盤ができていきました。日本では、社会福祉国家というふうに言われますが、実は私たちは、社会福祉という言葉は使いません。私たちが使っているのはウェルビーイングという言葉です。社会福祉というのは、ウェルビーイング、幸せな状態、誰もが幸せに生きられる、そういうために必要な手段のことであって、目的ではないんです。でも、日本にはそういうウェルビーイングという概念がないので、社会福祉というふうによく訳されるんですが、あくまでも社会福祉は手段です。目的は、ウェルビーイング。一人一人が幸せに自分らしく生きられるように対等な権利を持って、そして責任を持って国を支えていくという、そういうことをフィンランドは目指しています。具体的には、年齢、学歴、地位、経済状況関係なく、誰もが個として尊重され、自分らしく生きられる。そんな社会を目指してきました。

といっても、私のようにフィンランドから離れて生活していると、随分フィンランドの社会は格差が広がってきていると感じます。それを自分の家族とか友人とかに言うと、日常の中ではなかなか気づかないところみたいで、私が住んでいたころと比べるとすごく大きな差が出てきてしまっているように感じます。

男女が平等というふうに言われていますが、じゃあ本当に平等、全てにおいて平等、対等なのかというと、まだまだ課題があって、そのために、フィンランドではジェンダーアングル、つまり、男性の目線でも、女性の目線でも、その政策が本当にいいものなのかどうか、対等なのかということ、どんな政策のときも必ず考えなければいけないというようなことをやっています。

■男女の役割

男女の役割なんですが、これは社会の変化とともに

にどんどん変わってきていまして、1960年代から女性が働き出して、それが1970年代になりますと、定着してきます。共働きが定着してきて、そのころからお父さんたちが少しずつ育児や家事を分担して行うようになってきました。

共働きであるということは、日本のように家制度がないので、家を継ぐという感覚も大昔はあったのかもしれませんが、少なくとも私の祖父母が子どもだった時代にはもうそういう制度はありませんので、それぞれが自分で稼いだお金を自分で管理するというのがフィンランドでは一番一般的です。

具体的にどうしているかという、それぞれが稼いだお金が入っている自分の口座があって、そして、住宅ローンとかいろいろなものを支払うための共通の口座があって、そこにいつもお互いがお金を入れて、そこから自動引き落としにするというふうにしています。いろいろなやり方があると思いますけれども、要は家の中でも対等な立場にいるということです。どちらかがお金を管理していて、任されているとか、そういう役割分担があるわけではなくて、一緒に全てやっている。簡単に言えば、できる人ができることをする。特にルールということはあるわけではなくて、それぞれの家庭で決めていいんではないかと思います。

そして、フィンランドでは子育てしやすい社会を作っていくためには、女性の政治参加がとても必要ということで、1995年に男女平等法が改正され、公共部門において、男女の数が同じになりました。

2000年から2012年まで、初の女性大統領が2期を務めました。この間に、期間は長くなかったんですが、首相も女性で、大統領も首相もどちらも女性という時期がありました。現在は国会議員の4割が女性なので、そういった意味でも、ジェンダーギャップ指数というのは、フィンランドはよい順位がつくわけなんです。

労働人口の半分が女性で、80%以上の成人女性がフルタイムで働いていてキャリアを持っています。そして、職場においても家庭においても、本当に男女の差がなくて、女性だから、男性だからというような、そういうことを意識して働くとかという必要はほとんどないです。どういう立場にいる人でも、例えば子どもの具合が悪くなったら、社長であっても普通に会社を休みますし、「子どもが具合悪いか

ら」って言うと「じゃあ、お大事に」という感じで、それはお互い様という考え方があって、そこで迷惑がかかるというようなそういうことはフィンランド人は考えません。

暮らし方・価値観

【暮らし方・価値観】

では、暮らし方、価値観について、紹介していきたいと思います。

基本的には、自分は自分、人は人という考え方があります。人のことに干渉しませんし、干渉されることを嫌います。私のことはほっといて。あなたはあなたのことをやりなさい、考えなさいって。私たちは建前という概念がありません。本音しかありません。そういった意味でも沈黙ってというのが重要になってくると思うんです。思ったことをどんどんしゃべるのではなくて、よく考えて、今ここでどういうふうに言ったらいいのかなと、そのデリカシーがあります。

何でも発言が自由っていうことを言いましたけれども、何でもかんでも話していいというわけではなくて、どういうふうに相手に伝えるかというのはよく考えますが、基本的に本音しかないの、例えば「この人とはあまりおつき合ひすることないかもしれないな」と思ったら無理につき合いませんし、無理に友達になろうとしません。この人とは合うなとかこの人とは合わないなとか自分の直感をわりとお互いに信じて、生活しているところがあります。

それは、ある意味お互いの違いを認めるということでもあって、あなたのやっていることは理解できないけれども、いいんじゃないってというようなそんな感じですね。それは男女とかの間だけではなく、親子関係や会社の上司と部下の関係でもそうですし、友達関係でもそうです。考え方が違う人とも、それ以外のところで気が合えば、仲良くなれます。

それから、友達をよく選びます。誰とでも友達になるわけではないので、日本だったら、小学校に上がるころに「友達100人できるかな」という歌の歌

詞がありますよね。私たちは友達100人要りません。99人と友達でなくても、1人の仲のいい本音で付き合える友達がいたらそれで十分です。だからみんな仲よくとっていうことは、フィンランドでは絶対言わないです。

あまり人目を気にしません。人にどう思われようが、私は私、自分がどうありたいかということ、どちらかという、重要視します。

使い捨ても好きではありません。比較的、長く同じ物を使う習慣があります。物にあまり執着しません。

それから、仕事とプライベートを分けます。例えば、仕事でお友達になるということはありませんけれども、職場の友人関係にない人は、例えば結婚式に呼びません。社長であっても、部長であっても、自分のプライベートに関係していない人は結婚式には呼びません。

それから、メリハリをつけるということがあります。常に100%と言うと言い過ぎなんですけど、1つのことに集中して、休むときは休む。仕事するときは仕事するというメリハリをつけます。そして、自然の中で何もしない時間をつくるように、わりと心がけます。ノルディックウォーキングって皆さんご存じですか。ストックを持って歩くんですが、あれはフィンランドで始まったスポーツなんですけど、年齢とか関係なく1人で歩いている人も結構いますし、自分の体力づくりもそうなんですけど、1日1回は外に出るというような習慣がフィンランドにはありまして、1人で過ごす時間というのが、いろいろなことがリセットされるのにすごく役に立っています。

生涯学習という概念がありまして、勉強は学校でするだけではなくて、一生ずっと何かを学ぶという



ようなことがあります。

そして、自分の人生を楽しむ。一度しかない人生なので、夢を持って人生を楽しむというのがわりとフィンランドの大きな考え方です。

フィンランドには、「頑張る」という言葉がありません。「sisu」というフィンランド語の言葉がありまして、これを頑張るというふうに訳されることもありますけど、「sisu」というのは、ガッツ、根性、粘り強いか、そういう粘り強さはあるんですが、私たちは「頑張る」というのは、日本語の頑張るとちょっと意味が違います。ベストを尽くす、やれるところまでやる、でもそれ以上はやらない。だから、何か日本の場合、それはどういう意味が頑張るって言葉に込められているかによると思うんですが、頑張っている人に、もっと頑張りなさいっていうようなことは、フィンランドにはないと思います。

基本的にムーミンの世界ってというのが、わりとフィンランドの価値観をあらわしているかなというふうに思います。互いの違いを認めて、一緒に仲よく生活している。平和に穏やかに暮らしています。結構キャラクターそれぞれ濃いんですが、お互い全然考え方が違ったり、生き方が違ったり、相手がやること、言うことに腹が立つこともあったりしますが、それはそれ、これはこれということで割り切っています。

それから、自分の持つ感性、価値観などをそれぞれが大事にしていますし、自分らしく人生を楽しんでいるというところが、わりとフィンランド的な生き方に共通するのかなというふうに思います。

ムーミンのお話を、小説で読んだことがある方ってどれくらいいらっしゃいますか。ありがとうございます。少ないですね。もしよかったら、1冊でもいいので、アニメではなくて小説を読んでみてください。また全然アニメと違う世界観がそこにあります。このムーミンの作者は、実は世界のいろいろな情勢を小説の中に、例えば、大きなすい星だったかな。襲ってくるという話があるんですが、それは実はロシアをあらわしているんです。ロシアがフィンランドを襲ってくるか。あと、第2次世界大戦のころの情勢だとか。実は全然子ども向けの話でもなくて実はかなり深いお話なんです。もしお時間がありましたら、ぜひ図書館で借りて読んでみてください。

フィンランド流 働き方

【フィンランド流 働き方】

■ワーク・ライフ・バランスを大切に働く

では、フィンランド流の働き方についてです。私はずっと日本で、フィンランド企業、フィンランド政府観光局とかそういった機関で働いてきたんですが、本当に大きな違いがたくさんあります。私たちは、ワーク・ライフ・バランスを大切にしているところがありまして、かなり昔から週休二日制です。1日8時間勤務で、週40時間なんですけど、平均勤務時間というのが、EUで最も短い37.8時間というふうに言われています。

実際に、フィンランドの学力が世界トップになったところというのも、フィンランドの学校の子もたちは、実は世界で一番休みが多いんです。夏休みが2か月半ありますし、その間宿題も何もありません。塾もありませんし、あと、冬休みがあって、スキー休みがあって、秋休みがあって、春休みがあってって、一体いつ勉強しているんだってというような感じなんですね。だから、そのままメリハリをつけるというふうに先ほど言いましたけれども、ずっと勉強していたら、ずっと仕事していたら、やっぱりおかしくなってバランスが崩れる。それに体調を壊すという結果が出ないので、働くときは働く、勉強するときは勉強する。だけれども、そうじゃないときはそうじゃない。

実際にフィンランドの企業で働いていたときの同僚の話ですが、朝出勤したらまずコーヒー飲んで、それでちょっと仕事したかと思ったら、またコーヒー飲んで、コーヒー飲むっていうのは自分のデスクで飲むんじゃなくて、誰かとおしゃべりしながら飲んだりするんです。それでお昼休みに行って、帰ってきたらまたコーヒー飲んで、そしたら気づいたらもう帰っていて。一体この人たちはいつ仕事をしているんだってというふうに見られるみたいなんですね。仕事の仕方が違うっていうことは本当にありますね。

基本的に8時スタートで、4時には終了します。

朝早く行って、早く帰って早く寝るといような生活をフィンランド人はしていますが、フレックス制ですね。業務を何時に開始するか、昼休みを何時にとるか、何時まで働かかってというのは自分で管理して決めることができます。

そして、優先順位も自分で決められるんです。人が少ないので、1人がやらなければいけない仕事の量というのは実はたくさんあって、1人何役もこなさないといけない。そうすると、細かなことはどうでもいいんです。エクセルのシートが大体できていればいいんです。数字さえ合っていれば見栄えがそんなにきれいじゃなくてもいいんですが、日本の大手企業で、何回かワーク・ライフ・バランスの研修をさせていただいたことがあるんですが、そのときにどういったところを改善できるかというのを、皆さんのほうから提案してもらって、自分たちで考えていただいたときに、エクセルとかそういう表をつくるのを、どうしてあんなに何度も何度もやり直させられるのか。ああいうところはもうちょっとどうにかならんんじゃないかっていうのを聞いたので、相当大変なんだろうなって思います。もうちょっとここ直さないとか、ここそろっていないとか、色づかいもっと工夫しなさいとか。そういうことは、私たちにはあまり大したことではなく、むしろちゃんとやらなければいけないことができていくかどうかというところが評価の対象になります。

先ほどコーヒーを飲むというふうに言いましたけれども、フィンランド人は世界で最も1人当たりのコーヒーの消費量が実は高い国でして、職場にも大体どこに行っても無料のコーヒーが置いてあって、私も学生のころは1日五、六杯ぐらい飲んでいましたね。本当にコーヒーが大好きなんですけど、コーヒーブレイクというのは正式にあるんですね。大体お昼休みが30分で、15分のコーヒーブレイクが午前と午後と1回ずつある。こういうふうに休憩をすること。頭を休ませること。そして、人とおしゃべりすること。実はすごく大事なんです。

ずっとこつこつ自分の仕事だけをやっていると、やっぱり行き詰ってしまうところがあって。そういったときに、コーヒー飲みながらどうでもいいような話をしていると、ふとその中からいろいろなアイデアが出てくる。今のアイデアいいかもしれないとか、今のもうちょっとそれについて今度ちゃんと話し合



おうよとか、いろいろなアイデアが実は生まれてくるんです。

だから、機械もずっと使えばなしにしているよりも時々休ませてあげなきゃいけない。このコーヒープレイが正式にあるというのは、フィンランド独特かもしれません。

基本的に残業はしません。本当に必要なときだけ。そういったときも上司に許可が必要です。上司から頼むときもそうです。本人の理解がないと残業させられません。上限も決まっています。これはフィンランドに限ったことではないんですが、残業が必要な人は、仕事のやり方に問題があるんじゃないか、どこかで効率の悪いやり方、無駄をしているのではないかということで、指導されることもあります。

しかもフィンランドでは、国としてワーク・ライフ・バランスを保ってほしいということで、残業代は50%税金で持っていかれちゃうんです。だから、ちょっとお小遣いがほしいから残業しようなんて思っても、大したお小遣いにならないんです。むしろ、体も疲れるし、家族関係もいつまでも会社にいたら仲よくできなくなったりとかいろいろなしわ寄せが来るので、できるだけ残業はしないのがフィンランドのスタイルです。

それからこれは日本にはない制度だと思うんですが、日本だと自分や子どもが病気だったりすると、自分の有給休暇を使っていきますよね。フィンランドでは、有休は有休でそれとは別に、シックリーブという病気のときに休める制度があります。これは、誰も好きで病気になるわけじゃないでしょうということで、病気のときは病気でお休みして、そして有休は有休で。大体有休は全部で5週間あるんですが、それをほとんどみんな使い切ります。

それから、体調不良のときに休むのは当然なんです。これ、私が日本に来てびっくりしたことなんで

ですが、熱があっても、マスクをして、ごほごほ言いながら仕事をしているというのは、周りはずつりまですし、効率が悪いですし、絶対ミスとかもしますし、風邪も長引いてまいりますし、いいこと何もないのに、どうしてそんな体調が悪いときに1日2日休めないのかなっていうふうに思っていましたし、今でも思っています。だから、子どもたちには、体調が悪いときはとにかく休みなさいと言って、学校をいつも休ませていました。

それから、職場においても、ウェルビーイングを重要視します。いい状態で働けるように、雇用主がいろいろ工夫をしています。例えばライトもそうですし、デスクや椅子を自分の体に合うように調整できるようなものかどうかとか、みんな体の大きさが違うのに同じサイズの椅子に座っているというのも変なことです。今日は誰々が誕生日だから仕事の後にみんなでご飯を食べに行くっていう習慣はフィンランドではないので、昼間、職場のみんなと一緒にランチ食べたり、一緒にコーヒープレークをとって、じゃあ今日はちょっと長めにコーヒープレークしようとかってというようなことをします。

最近では、一日中座っているということが、実は体にとってもよくなくて、いろいろな病気の理由になるということで、自分が立った状態でパソコンが使えるとか書けるとか、自分で調整して立ったり座ったりできるようなデスクが今主流なようです。

一日の中で、休憩時間にみんなで一緒にストレッチをしたりとか、ちょっと体操をしたりとか。東京のフィンランド大使館でも、みんなで庭に集まって、みんなでストレッチをすとかそんなことやっているみたいですけども、気分転換になりますし、考えもすっきりしたりとかして、なかなかいい効果があるようです。



■働き方の違い

では、私が感じてきた働き方の違いを少し紹介したいと思います。一般論として、日本では今でも学生たちが就職活動とかしていて、学歴が日本ではまだ重要視されていると思います。フィンランドでも、もちろん学歴は重要です。アカデミアなのかそうじゃないのかっていうのは、いろいろなところで分かりますけれども、経験が大事なんです。勉強だけじゃなくて、それ以外にどういったことをしてきたのか。就職するときにそこを見られます。

勉強しかしてこなかった人というのは、むしろどんなにいい大学を卒業していても、就職先を見つけることは難しいと思います。なぜなら、新入社員研修とかそんなのがないので、入った瞬間から即戦力として働かないといけないんですね。そうすると、勉強しかしてきていない人っていうのは、実際の実務がよくわからない。だから、どういうアルバイトとかをしてきたかとか、例えば海外で語学研修に行っていたとか、どういうことをやってきたかによって、その人がどういう人なのか、どれだけ積極性があるのかとか、活動的なのかとか、自分から知らないことも引き受けてチャレンジする人なのかとか、そういうところを重要視します。

日本では、学校にみんな同時に入学して、同時に卒業して会社に入ってもみんな同時に入社しますし、中途採用よりも新入社員でみんな一斉に採用されるということがまだ一般的だと思うんですが、フィンランドでは、高校も入るのが春入学、秋入学ありますし、高校も2年、3年で卒業する人もいれば4年間かかる人もいますし、人によってもう随分違ってきます。小学校でも留年があります。

フィンランドでは、とにかく落ちこぼれをつくらない、落ちこぼれる学生がいないようにサポートするというので、しっかりその年に学んだことが身についているかどうかというのをチェックしてから進学させるんです。だから、1年間年が上とか下とかっていう人は必ず各クラスに1人が2人はいます。別にそれは何とも思いません。上下関係がそもそもないので、あまりそこは気にならないようです。なので、就職も同じです。みんな大学とか卒業する時期が違ったりとか、卒業してもすぐに就職しないで、何かちょっと世界を見てみるとか、自分のやりたいことをまずやってから就職するとか、子育てしながら



ら大学に通っている人とかもいますし、本当に人によってまちまちです。

今終身雇用のシステムがだんだん日本は崩れてきているといっても、まだ人事が求めるのは一生その会社にいてくれるような人材だというふうに聞いていますが、フィンランドでは、中途採用が一般的です。

私が学生のころも、既に5年間同じ仕事をやって変化がなければ次に行きなさいというふうに教わりました。つまり、生涯学習の考え方です。専門的に、例えば何か研究をしているとか、自分が持った特別な能力、才能を生かしている仕事であれば別なんです。常に新しいことにチャレンジしていくということが大事なんです。私自身もそうなんです。ある程度この仕事でできるところまで来たなという後は、次にまたチャレンジするものを見つけたいというそういうのがフィンランドでは一般的です。

まだ、日本では一般職とか総合職とかっていうくくりがあるみたいですが、フィンランドでは、よくも悪くも、経験次第で誰でもいきなり管理職に抜てきされたりします。仕事もお給料もまだ男女の差が日本は結構あるというふうに聞いていますが、フィンランドでは、基本的にはそれはなくて、ポジションによってどういう仕事をするかとか経歴によってお給料も決まります。

責任が与えられるようになるまで日本は10年ぐらいかかるというふうに聞いていますが、フィンランドは最初から役割が明確で、ジョブ・ディスクリプションというものがあって、あなたにはこの仕事をしてもらいます。そのために採用しますというようなことで、最初から自分のやることというのはわかっているの、即戦力として雇われる側もそういう気持ちで仕事をします。

いわゆる報連相という概念はフィンランドにはありません。フィンランドでは自立した働き方なので、管理したりされたりというよりも、必要に応じてチームの人の意見を聞いたり、上司にアドバイスもらったりしますが、基本的に自分に任された仕事は自分がやりたいように、自分にとっていいと思うような方向で進めていくことができます。

日本はまだ制服があったりとか、いろいろ決まりはあると思うんですが、フィンランドは制服がそもそも存在していませんし、銀行においてもどこにおいても、みんな自分の私服です。デパートとかだったら何かしらあるかもしれないですが、最近は本当に見かけなくなりました。

まだまだ日本では、長時間労働が一般的というか、それでも30年前と比べると、少なくなってきたと思いますが一つの課題なのかなというふうに感じます。年功序列もまだシステムとして残っていると思うんですが、フィンランドは実力主義。日本では、人事がわりと会社都合というふうなことに對して、フィンランドでは自分の希望が優先ですね。だから、異動とか転勤とかは、日本は会社が決めることが多いですけども、フィンランドには基本的に異動も転勤もありません。本人が希望しなければ、全然ありません。

それから、先ほども言いましたように、お客さんとのつき合いとかフィンランドにはありませんし、勤務時間外は一切かかわりません。それはもう自分のプライベートな時間なのであまり重要視しません。

働くために生きるっていう方たちがまだ日本には多いのかなと思います。これも、若い人たちは今変わってきていると思うんですが、フィンランドは生きるために働く、だから必要最低限のことしかしない。自分の人生を生きるというようなことなんです。

フィンランドでは、日本と同じぐらいの年齢で定年がやってきます。しばらく前までは、定年の年齢がずっと65歳だったんですが、それをちょっと早めて63歳になり、私の母も63歳で定年退職しました。最近では平均寿命が延びているということもあって、70歳くらいまで働けるようにはなったと思うんですが、フィンランド人はあまりずっと働きたいとは思わないです。定年になったらもう何をするかという目標がわりとみんなあって、早く定年になりたいなと思っています。定年になった人たちのこと

を「年金生活者」という言葉で呼ぶんですが、それはフィンランドの社会を支えてきてくれた人たちということで、尊敬を込めた言い方なんです。だから、日本だと無職って書いてあるじゃないですか。よくインタビューするときも。もう立派に働いてもらって、定年を迎えて、全然ゆっくりしていただいのに無職って言うと何かとてもネガティブな響きがあり、何かもうちょっといい言い方があったらいいのにと思ったりします。

フィンランド流 子育て

【フィンランド流 子育て・教育観】

■豊富な子育て支援

では、子育てに移りたいと思います。国民がとても少ない国であるということで、フィンランドの社会において子どもが財産というふうに考えられています。そのために、子どもを歓迎するさまざまな仕組みがあるんですが、あまり詳しくは言いませんが、母親の、出産と育児休暇。これ実は日本より短くて11か月しかないんです。私も子どもが2人、29歳の息子と24歳の娘といるんですが、2回ともちょうどフィンランドの政府機関で働いていた関係で、フィンランド流の育児休暇をもらいました。でも、11か月だったので、とても短いなと思って。フルタイムで働いていると、子どもと本当に向き合って一緒にいられる時期というのはその時期だけで、実際には生まれる2か月ぐらい前から休みに入るので、子どもが8か月とか9か月のときに保育園に預けるんですね。泣き叫ぶ我が子を保育園に預けて働くということが、とても寂しかったです。今は随分増えてきましたけれども、当時、30年ぐらい前は、まだフルタイムで働いているお母さんたちは少なかったです。フィンランドでは出産・育児休暇は11か月が普通でして、そのかわり、その後に両親休暇という親のどちらがとってもいいような休暇があるので、実際には11か月で仕事に復帰する人はほとんどいません。

最近注目されているのは、父親休暇です。これ昔はありませんでした。この父親休暇というのが、年々

増えていまして、今は54日間あるんです。フィンランドでは里帰り出産という概念がなく、1回家を出た後は、もう実家に帰らないんです。離婚をしようが何があろうが、親の元に帰るということはフィンランド人はしないので、基本的に赤ちゃんが生まれたら、それはもう夫婦と一緒に育てるものだというので、生まれてから18日間は、お父さんとお母さんと赤ちゃんの3人で一緒に過ごします。その間父親に手当ても支給されます。最近では、お父さんたちがより平等に、お母さんたちと対等に休暇を取得するように、法の改正があるのではないかというふうに言われています。実際に最近はお父さんたち仕事に復帰することを全然急いでいなくて、むしろお母さんのほうが早く仕事に戻って、お父さんたちが育児休暇をとっていることが増えているみたいで、約8割のお父さんがこの父親休暇をとっているそうです。

そして、これ日本だけでなく、世界でも注目されているのが、皆さんもご存じかもしれませんが、母親の育児パッケージです。母親支援キットというふうに私たちは呼んでいるんですが、今年度のものは64品が入っていて、こういうパッケージが国から送られるんです。これ、段ボールに入っているんですが、その段ボールというのが90センチから1メートルくらいの頑丈な段ボールなんですけど、それを赤ちゃんの最初のベッドとして使うこともできます。この箱の中に、この品物が入っている箱の底に厚めのスポンジみたいなものが入っていて、それがマットレスがわりになるんです。あと段ボールといっても、そのまま段ボールのまま使うわけじゃなくて、シーツみたいなものを巻いたり、周りにカバーをつけたりして使います。

でもすごく助かるんです。私も2回とももらったんです。最初にいろいろなものを揃えないといけないので、それを国がプレゼントしてくれるというのは、ものすごくありがたいことでしたね。

それから、もう一つ、娘をフィンランドで産んで、そのときにネウヴォラ、出産育児相談所というのを利用したんですが、各地域の医療センターの中にあるんです。保健師と看護師の資格を持ったネウヴォラのおばちゃんというふうに私たち言っているんですが、お医者さんではないんですが、そういうネウヴォラ専任の方がいて、その方が妊娠したときから、

ずっと赤ちゃんが生まれて小学校に上がるまで、そこまでずっと見てくれます。

基本的に妊娠中の体重をはかったり、血圧とかそういう検査をしたりっていうのは全部ここでやってくれます。お医者さんに見てもらおうということは、本当に妊娠期間中何か異常がない限りは、1回か2回かしかありません。基本的にはネウヴォラに通って、ネウヴォラのおばちゃんが全部見てくれます。赤ちゃんが生まれてからもそうです。

今これを、日本の政府が各自治体でネウヴォラのシステムを取り入れるようにということで、今大使館の人たちも日本全国、先ほどのパッケージを持って、いろいろなところで紹介して回っているようです。実は100年近く続いている独自のシステムでして、もともとは貧困家庭を助けるための仕組みとして始まったんです。赤ちゃんの死亡率がとても高い時代があって、そういったところから少しずつこういうシステムが確立されてきました。

もう一つ、フィンランドのお母さんたち、お父さんたちがたくさん使っている制度というのが、子どもが3歳になるまで家で育てることができるという制度なんですが、これは、その後、自分もとの仕事に戻れるという保証があるからみんな安心してこの制度を使っています。雇う側からしてみたらちょっと不安なんですよ。3歳ぐらいになったら、また次の子どもを妊娠するかもしれないという不安があるんですが、それも社会を支えるために子どもが生まれないと困りますし、最近は出生率がフィンランドもとても下がってきているので、むしろそれは、妊娠してくれたらありがたいというようなことがあると思います。

日本は待機児童の問題がかなり深刻ですけども、フィンランドでは法律で自治体が保育所を確保しな



ければいけないというそういうことが決まっています。待機児童の問題はありません。そして、先ほど言いましたように、残業もなくて休みが多いので、仕事と家庭のバランスというのはとても保ちやすい環境があるのかなというふうに思います。

■家族の形

平均的な家族のサイズ。これちょっと古い情報なんですけど、2.8人。随分少ないと思うんですけど、2人親世帯が8割。1人親世帯が2割。かなり離婚率が高いというのがフィンランドの現状です。50%という数字も見たことがあります。そのかわり、かわりと言ったら変ですけども、共同親権なんですね。よっぽどDVとか、虐待とか、何かそういう問題がない限りは、必ず親は離婚した後も一緒に育てます。これは、子どもにとってとても幸せな仕組みだと思うんです。友達とかを見ていてもそうなんですけど、おじいちゃん、おばあちゃんと別れることもないですし、フィンランドでは何かしらお祝い事があったりすると、おうちに家族とか親戚とか友達を呼んで、パーティーをするんですが、大体質素なパーティーなんですけど、そういうところにも、離婚をした後も、離婚した相手が来たり、そのおじいちゃん、おばあちゃん来たりします。全部が全部幸せなケースではもちろんないんですが、子どもを見てくれる大人の数が増えるということで、子どもたちの意見を聞いていると、必ずしもネガティブな体験だけではないみたいですね。

フィンランドでは事実婚というのは、とても一般的です。結婚前に同棲をして、そのままずっと同棲したまま籍入れない人も多いですし、子どもができてそのまま事実婚として、一緒に生活するということが普通です。実際に、婚姻届けではないですけども、自分たちが事実婚であったとしても、それが正式な結婚なのか事実婚なのかというのを選べる場所があって、受けられる支援などは全部同じです。正式に結婚している、していないということに大きな違いはなく、ただ、もちろん財産とか、離婚したときにどうなるかとかいろいろなことがあって、事実婚を選んでいるということがあって、権利も義務も同じです。

それから、最近増えているのが、いわゆるステップファミリー、子連れ同士の再婚です。そして、

2016年からは、同性カップルの結婚も可能になりました。同性同士のカップルの場合は、養子縁組も可能でして、同じようにさっきの育児パッケージももらえますし、母親手当てや父親手当ても同じようにもらうことができます。



■子育て

子育てなんですが、家族の時間を大切にすることがあって、できるだけ早く仕事からうちに帰って、みんなでご飯を一緒に食べながら、その日のことを話したり、子どもに絵本の読み聞かせをしてあげたり、自分の趣味を楽しんだりします。親も子どもと同じようなタイミングで何か自分が好きなことをやって、そしてまた夜みんなで集まって、簡単に何か軽食を食べて眠るというような感じなんです。

サウナは大体どこの家庭にもあります。1軒1軒のおうちじゃないにしても、マンションだったらマンションの中に2つか3つサウナがあって、それを順番で、何曜日の何時から何時は何号室の家が使うっていうそんな仕組みなんですけど、サウナは週1回、多くて2回、家族で一緒に入って、そこでいろいろな話をしたりということをしします。

長い夏休みも一緒です。大体家族で旅行に行ったり、一緒に過ごすということがわりと普通です。

年齢に関係なくスキンシップっていうのはずっと一生続きますし、小さいころから、子どもは自分とは違う人間として、自分の意見を持っているということをフィンランドでは尊重します。だから、男とか女とか、子どもとか大人とか、そういう以前に、みんなそれぞれ1人の個として存在をしていて、そして親子とか兄弟でも違って当たり前。だから、あまりカテゴリーにまず入れたがりませんし、あなたはああでこうだからこうなのねというようなこと

もないですし、「男の子のくせに」とか「女の子なんだから」とか「もう何年生なんだから」とかそういうようなこともありません。「あなたはこうだからこうじゃなきゃいけないでしょう」みたいなそういうプレッシャーがあまりない環境があります。

子どもは子どもの人生を生きる。だから、友人とか進路とか職業、結婚するしないとか、そういったことについて親も干渉しません。親が干渉すればするほど子どもは親から離れて、実家にも帰ってこなくなってしまうので、親としても「いいんじゃない。あなたの選択だから。あなたがそれでよければそれでいいんじゃない」というのがわりと一般的です。

私も日本に帰るということを、実は親にも一言も相談しませんでした。学生のころ夏休みを利用して、日本へ旅行に行きました。その間に、当時はフィンランド大使館の中に商務部というのがあって、商務部の人のところに行って「来年卒業して、日本で育ったこうこうこういう経歴を持っているんだけど、どこか雇ってくれる会社ないですか」って相談に行くと、全部決まってから親に「来年から2年間日本行くからね」という感じでした。母親は寂しく思ったみたいですが、それが当時から全然普通でしたし、今はもっと子どもがどういう計画を持っているのかを知らないということもあります。大体オープンにいろいろなことを話すというのがわりと一般的ですが、子どもが何かあまり話したくないというふうな雰囲気を出すときは、無理にあえてそこを聞こうというようなことはあまりフィンランドではしないかもしれないですね。

そして、子どもが自立してひとり立ちできるように、早いうちにわりとそういう意識を持って手放していくんですが、大体20歳前後で家を出るのがフィンランドでは一般的です。ただ、今は就職できない状況があって、なかなか大変なんですが、日本でよくある就職しても実家暮らしというそういう人がもしいたとしたら、それはもう親も子どもも問題があるので、カウンセラーに行きなさいというふうに言われます。それほど珍しいことです。

大体同じ町に住んでいても、いわゆるスーパの冷めない距離っていうのが理想でして、近くにはいるけれども、お互いに干渉しないで済むぐらいの距離感で、何かあったときには、助けてもらったり、助けてあげたりできますが、基本的には別々に暮らし

ます。そして、親も自分たちの生活も大事にしたいんです。あまり子どもが来ると、自分たちの生活ができなくなるというか、親のほうも自分たちのプライベートには、子どもとか孫とかにも入って来てほしくないんです。

最近では、実家暮らしを余儀なくされるケースが増えていて、実家で生活しなければいけないというような状況が、今のフィンランド人にとっては、どちらもつらい状況です。

学校でも、いろいろなことを議論したりする授業があるんです。何か先生の意見と違うと思ったら、それを自由に発言できますし、そこからいろいろなことをみんなで一緒に話し合うというふうに広がっていきなりしますし。家の中でもそうです。いろいろなニュースを見ながら、社会で起きていることとか、世界の情勢のこととか、政治のこととかいろいろなことを話します。だから、その中で同じ考え方になっていくということはよくありますけれども、考えが違っていても、そうなんだ、そういうふうに考えているんだ、自分と違うということは別にマイナスではなくて、むしろそこが多様に広がって行って、それはそれでおもしろいというふうに、私なんかも思います。

教育というのは、別に学校だけの責任ではなくて、おうちで親が教えるということでも考える力を養います。自分で自分の人生を生きていく。そういうスキルを身につけることが教育というふうにフィンランドでは考えられます。



■家族・育て方の違い

これも私の個人的な考え方なんですが、日本の社会ではまだ、家庭内においても、職場においても、比較的男女の役割分担というのがあるのかなというふうに思います。フィンランドの社会は、以前はそうでしたけれども、今は差はないということです。

それから、子育てが基本的に母親の仕事というのは、日本の社会もこの30年で随分変わってきましたけれども、やっぱりPTAの活動が昼間だったりすると、フルタイムで働いている、まずお父さんたちが参加しませんし、お母さんたちもフルタイムだったら、なかなかその都度お休みをとってPTA活動に参加するということが難しいです。専業主婦のお母さんたち、働いているお母さんたち、働いているとフルタイムで働いているのか、パートで働いているのかとか。職場においては、子どもがいる女性、いない女性とか、いろいろなカテゴリーがあって、なかなかその垣根を壊していくということが難しいのになって、そこが私なんかは結構苦労してきたところなんです。

今のフィンランドにおいては、PTA活動がそもそもとても少なく、基本的に学校に任せています。本当に最低限の活動しかなく、夜にやるので、働いていても参加できるシステムになっています。

日本では、お母さんたちは子どもに熱心に手をかけ、お父さんたちは見守るという状況が多いと思うんですが、フィンランドでは基本的に手をかけるのは本当に小さいときだけで、そこから先はできるだけ自分のことは自分でできるように促します。フィンランドの親は子どものことをもうちょっと考えたらと思うような、自分たちの人生を楽しみ過ぎているふうに見える人たちもいます。日本は母子中心で、フィンランドでは自分中心です。

スキンシップにも違いがあって、日本だと、もう3歳だから抱っこしないとか、もう小学校に行ったんだから、もうあれしない、これしないって、私はそれが結構衝撃的だったんです。

夫婦の時間というのも大きな差があるというふうに思います。日本だったら、年をとるにつれて、夫婦が空気ようになっていくというのが当たり前というふうにみんな言うんですが、フィンランドでは、そうになったら終わりなんです。

離婚後の親権について先程も言いましたが、共同親権の制度は本当に日本にも早く取り入れてもらえたらいいなというふうに思います。今でも仲がいい親子がたくさんいるんですが、でも本当に苦しんで、ぎりぎりの生活をしている友人がたくさんいるんですが、共同親権でもうちょっと責任をちゃんと対等に分担する仕組みがあったらいいのになというふう



に思います。

それから、1つ大きく違うところが、これも私の周りで、若いお母さんたちがしゃべっていることを聞いていると、子どもに何をやらせるか、こうなってほしいからこういう習い事をさせたいとか。フィンランドではそうではなくて、できるだけ子どもがやりたいことをできる環境を整える、というようなところがあります。

これは勉強においても同じでして、日本の勉強というのは、わりと苦手なことを克服するために、オールマイティーにオール5がとれるような子ども、学生を育てるんですね。そうすると、私が今、大学院生たちとかかわっている中で、みんな自分が何が得意で何が好きなのか分からない学生が多いんですよ。いろいろなことをやってきて、オールマイティーにいろいろなことができるんだけど、じゃあ子どものころ、何が好きだったって言ったら、一番衝撃だったのが「小学校3年生のころから塾に通い出して、そこから先はゲームしかやっていません」と言われ、「ええ、何してきたの」って、本当に悲しくなるぐらいです。自分はこれが、私はこれが得意なんだ。これが好きなんだっていうものがない学生が多いんです。それは、自分の子どもの友達とかの話も聞いてもそうなんです。特にやりたいことがないけれども、とりあえず大学に入って、とりあえず就職して、とりあえず生きていくというか、別に好きなこと何もないし、特に毎日が楽しいとも思わないし、大学行かなきゃよかったなとか、もう本当に悲しくなります。でもきっとこういうことが関係していると思うんです。いろいろなことができるようになることはきっと素晴らしいことだと思うんですが、本当に何ができるのか、本当に何が得意なのか。そこは見失わないような、何とか得意なところ

を伸ばしてあげるということをもう少し取り入れたらいいのかなという気がします。

【社会の抱える課題】

そして、子どもの進路についても先程も言いましたが、いろいろな違いがあり個人的に私を感じたことを今皆さんにシェアをさせていただきましたが、フィンランドの社会にもさまざまな課題があります。

まず、少子高齢化社会。これは、フィンランドでも随分進んできています。高齢化が進んでいて、社会福祉のいろいろな制度が、それを支えてきた現役世代の人口が減っているということで、これからどんどん福祉のサービスを減らしていく、税金を上げていかなきゃいけない、そういう将来が待っているんじゃないかと。

それから、日本と同じで、若い世代で子どもが欲しくないと思っている人が増えてきています。

そして、都市部に人口が集中するのはフィンランドも同じです。どんどん地方都市が、地方が過疎化して行って、そうするとともに人口が少なくてもともとサービスがそんなにあるわけではない地域に住んでいる人たちは、ますますサービスが受けられなくなってしまいます。

そして、離婚率が高いところから、子どもたちが抱える精神的な問題が多いんです。あと、高校から先は学校の勉強も結構大変なんです。高校は卒業するために国家試験みたいな、全国一律で卒業試験というのがあって、それにパスしなければ卒業できないんですが、1日1科目、朝9時から午後3時までずっと6時間かけて、高校で習ったこと全部やるんです。またそれを小論文にして発表します。そのための勉強が、私が高校に通っていたころより今のほうが何倍も大変らしくて、学校に通ってやらなければいけない課題もたくさんあってと、本当に若い子たちはわりとへとへとなんです。

それから、残念ながら、フィンランドの課題はアルコール依存症です。昔からあります。一つ最近の研究でわかってきたのは、戦争の影響じゃないかということです。戦場から戻ってきてあまりに残酷な経験からだんだん精神的に不安定になりそれをアルコールとかに逃げて、そして家庭がどんどん崩壊していってしまうんです。フィンランドの社会がもし戦争がなかったら、また全然違った社会になってい

たかもしれないなというふうにも思います。

今の若い子たちは、アルコールよりも薬物なんです。薬物依存の問題もフィンランドは今では深刻になってきています。

それから、非正規雇用、失業。本当に格差が広がってきていて、子どもの10%が貧困状態にあるというデータが出ているくらいなんです。これは、普通に街中で生活していると気がつかないんですが、結構現状は厳しくなっています。フィンランドでは炊き出しのことを「パンの列」というふうに言います。主食はパンではなく、じゃがいもなんです。基本的にパンを配給します。そういう場所に集まる人の数が年々増えていまして、そういうニュースの記事を見たりすると、本当に悲しくなります。ものすごい数の人たちが食べ物に困っていて、そういう炊き出しというか配給を望んでいるというのがあります。

それから、高学歴なんだけれども、就職先がなく自立することがなかなか難しくなっているということもあります。

どの国にも解決しなければいけない課題というのはいろいろあると思うんですが、一つフィンランドの場合は、誰でも大統領になれる。誰でも政治家になれる。そういうフラットな社会であるということから、自分たちがこういう問題を抱えている、だからこういうふうに社会を変えていこうということで、力を合わせて社会を変えていけるという力につながっていくというのがフィンランドの特徴だと思います。今後こういった課題をフィンランドの国民が、どういうふうに解決していくのか、私は日本に住みながら、それを見守っていきたいと思っています。

ご清聴どうもありがとうございました。



質疑応答

～質問カード・ホワイトボードを使った参加型～

後半は、会場者の皆さんも参加できる、独自の質問形式としました。

前半の講演終了後、質問がある方は休憩時間中に質問カードを記入し、前方ホワイトボードにある4項目「暮らし方」「働き方」「子育て」「その他」に分けて貼っていただきました。

会場からどのような質問がでたのか、司会が要点をまとめて読み上げて全体で共有し、講師の坂根シルックさんがその中から数点質問を選び、回答していただきました。

※ 時間等の都合で、お答えいただけなかった質問も掲載しています。

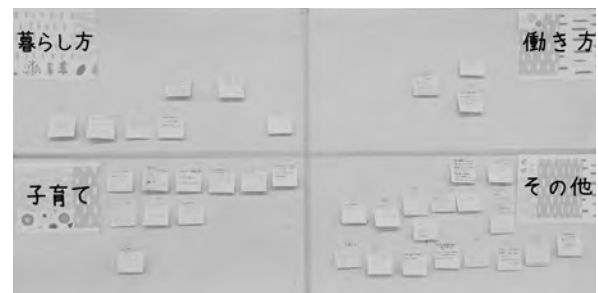
■「暮らし方」について

<質問>

- ・日照時間が短いことによる身体に与える影響、その克服方法について
- ・冬の寒い時期も外に積極的に出ますか。
- ・自分の健康はどのように気をつけていますか。
- ・フィンランドにはどのようなお祭りがありますか。
- ・年金生活者はどのような暮らし方をしていますか。
- ・地域活動はどうなっていますか。
- ・貧富の差は大きいですか。
- ・小金井市内でもフィンランドを感じる場所がありますか。

<回答>

先ほどフィンランドの気候について何も申し上げなかったのですが、冬の暮らしの部分もちょっとお話ししたいと思います。フィンランドの冬の時期は家に閉じこもりがちなのか、外に出るのでしょうかというご質問なのですが、冬は温暖化の影響で年々暖かくなってきていて、ヘルシンキはクリスマスに全然雪がないということも多々あります。冬だからと言って外に出ないわけではないです。とてもそれを象徴しているのが保育園の子どもたちなのですが、雨が降ろうが、雪が降ろうが、子どもたちは園庭で遊んでいます。赤ちゃんのころからいわゆる外気浴と



というか、外の新鮮な空気を吸うということをして、マイナス15度ぐらいまでは赤ちゃんを外で寝かせるんです。たくさん着込んで寝かせられるようなベビーカーで、日本のベビーカーより大きいんですが、背中が冷えないように、例えば羊の毛の敷物みたいな工夫をして、冷えないような格好をして、本当に顔がちょっと出ているぐらいのもこもこの雪だるま状態にして外に寝かせます。そうやって1日1回は外に出て空気を吸うということを小さいころからやっているの、わりと年をとっても外に出ます。もちろん働いている場合は、皆さん出勤するときに外に出ると思うんですが、平日外で動けなかったら週末1回ぐらいは散歩をしたり、フィンランドはクロスカントリーが主流なのでクロスカントリースキーをしたり、ノルディックウォーキングをやったりと、外が寒いからといって部屋の中に閉じこもって外に出ないということはありません。

あと、冬の一つの楽しみは、私も実際にいつもやっているんですが、外が暗くなるとうそそ

くをつけます。家の中でろうそくを食卓に置いて、ろうそくの光でご飯を食べたりとか、間接照明で部屋の隅っことかを照明を当てます。ろうそくが食卓にあると、それがすごく温かい雰囲気させてくれる。それが、暗い日の楽しみ方です。

あと自分の健康にはどのように気をつけているかというのは、先ほど言ったようにできるだけ動く。体を動かす。趣味としてでもいいんですが、動かすということを皆さんしていると思います。

■「働き方」

<質問>

- ・フィンランドでは、平均何歳まで働いていますか。
- ・日本の専業主婦という女性のあり方について、どのように感じ、考えられていますか。
- ・フィンランドでの障がい児の学校の仕組みについて

<回答>

何歳まで働くかについては、先ほどお話ししたように、定年が65歳だったのが、今は63歳から68歳ぐらいの間で選べる仕組みになりました。長く働きたい人はもうちょっと長く働けますし、早く年金生活を送りたいという人は早めに切り上げて自分で選べるような仕組みになっているみたいです。

専業主婦は、フィンランドにもいますが、よっぽど裕福じゃないと専業主婦ができません。私の友人たちの中で専業主婦をしていた友人は2人しかいません。一人は、子どもが3人いるんですが、一番下の子どもさんが小学校に上がるぐらいまで専業主婦をしていました。夫はIT系の会社を経営していて、かなり裕福な生活をしていたので余裕がありました。ただ、専業主婦をするか外で働くか、人のことをどうこう言

うような考え方はなくて、専業主婦ができるっていうのはある意味いいねって、うらやましいなってというような考え方を持つような人もいますし、一方で家にいると、その分社会経験が少ないということで、今度再就職するときに少し困るねと考える人もいます。ただ、その友人はとても才能がある人で、その後ずっと働いてまして、数年前に転職したみたいなんですが、すごく楽しんで今も仕事をしています。だから、専業主婦が評価されないとかそういうことは決してフィンランドではありません。

むしろ日本がいつとき女性活躍をすごく訴えていたときに、何となく専業主婦をしていちゃいけないかのような雰囲気があったように私は感じました。とにかく女性もみんな外に出て働きなさいというような雰囲気が行間から読み取れたんですが、そういうことも個人的にはおかしいと思います。それぞれが人生を楽しんでいけるのであればそれでいいでしょうし、その家庭でそういうふうに関わり方をしているのであれば、それはそれで全然いいことですし、みんながみんな外に出て働くということが女性活躍というふうには思いませんので、フィンランドの社会でもそういう考え方だと思います。



■「子育て」について

<質問>

- ・平和や人権教育はどのような機会子どもたちに伝えていきますか。

- ・家庭の方針が違っている子ども同士が、どのように一緒に遊んだりかかわったりしているか。
- ・日本で言うような義務教育制度は何かあるでしょうか。
- ・子どもたちの教育、勉強時間について
- ・いじめ問題はどのように解決していますか。
- ・幼児虐待への対応はどのようにされていますか。
- ・育てやすい環境があるのに、出生率が低いのはなぜでしょうか。
- ・大学まで無料ということですが、留学生も無料になるのかどうか。
- ・早く自立をしてしまうので寂しくないですか。
- ・祖父母の育児のかかわり方はどのようにされていますか。

<回答>

たくさん質問をいただいているのにここからピックアップするのは申し訳ありません。

平和についての教育というのは、小学校のころから授業の中で、みんなでテーマを上げて意見を述べ合うというようなことを結構やっているみたいなので、いろいろな考え方があるということに小さいころから慣れているという環境があります。

あと、日本のように、特に私立学校だと経済状況や家族状況など、似たような人たちが集まって一緒に勉強するという感じですが、フィンランドでは、わりとクラスの中でも違った価値観を持った人たちが結構いるので、自然にそれが身についていくというような感覚でしょうか。

あと、義務教育はあります。日本と同じく15歳まで義務教育ですし、勉強時間については、基本的に塾とかそういったものは一切ないので、家に帰って勉強をします。小論文を書くとか、作文を書くとか、ある程度宿題は中学校になったら出ますけれども、小学校の間はあまり先生たちは宿題を出しません。むしろ授業中ずっと先生たちの話を一方的に聞いているわけではなくて、「はい、じゃあ皆さんで考えてく

ださい」って言って先生が静かな時間を与えて、そこで生徒たち子どもたちが自分のノートに今聞いた話をどう感じているのかとか、聞いた話をまとめるとかそんなようなことをやっています。宿題を出すにしても平日だけで、週末、金曜日は宿題は出ないことが多く、週末はとにかくゆっくり休んでねって。そしたらまた一週間頑張れるかなというそんな感じでしょうか。

あと、いじめ問題。フィンランドにも残念ながらいじめはあります。いじめで自殺する子どももいます。ただ、数は多くはありませんけれども、やっぱりそれは一つ社会の中で必ず取り上げられる課題であって、いじめに対する教育プログラムというのがあります。はっきり覚えていないんですが、小学校と中学校の9年間の間に、必ず1年に1回はそういう教育があって、あと、9年間の間に特別にいじめを防止するための活動を集中的にやる学年もあるんです。それは子どもたちにいじめについて考えさせるだけでなく、親にも働きかけます。つまり、家庭の中でどういう会話をしているのか、人の悪口を言っていないかどうか、そういうような環境が家にあると、自然に子どもは人の悪口を言ったり、そういう態度をとってしまうので、親の教育もしているようです。そういう教材が今は世界でも注目されていて、そういうことをフィンランドは輸出しようとしているんです。だからいじめる側だけが悪いのではなくて、いじめる側と同じぐらい悪いのは、状況を見ていて何もしないこと。つまりそういうことを認識させるという教育をしています。それでいじめの件数はかなり減っているそうですが、ゼロにはならないでしょうね。人間が人間である限り、悲しいことですがけれども。

■「その他」について

<質問>

- ・フィンランドではどの血液型が多いでしょうか。

- ・若い世代は人生において、何を優先していますか。
- ・少子化問題について
- ・家庭内暴力で離婚した家族の支援について
- ・フィンランドと日本の価値観や親子間の大きな違いについて
- ・年金制度などの存続の心配がありますか。
- ・増税について
- ・日本の暮らし方、働き方、子育ての良い点を教えてください。
- ・共和国や天皇制の違いなどに起因することは何かありますか。
- ・フィンランド語での会話や勉強ができる施設をご存じでしょうか。
- ・主権者教育と投票率について
- ・増税について
- ・日本の部活のようなものはありますか。
- ・移民の問題について
- ・QOL（クオリティ・オブ・ライフ）について
- ・障がい者の雇用の状況について
- ・女性の社会進出が影響し、家庭でうまくいっていないのではないのでしょうか。
- ・大学は無償ということですが誰でも入れますか、大学進学率は何パーセントですか。

<回答>

すごくたくさん質問があるので、一番簡単な質問、血液型は日本と同じでA型が一番多いです。そしてO型、B型、AB型の順で日本と同じです。ちなみに私もA型です。血液型を知らない人もたくさんいます。

若い人たちが何を優先しているかっていうのはきっと日本と共通しているんじゃないかと思います。自分たちが楽しく人生を生きられるかどうかということじゃないですかね。学びたいことを学び、その後、自分たちが好きなような人生を送りたいということをきっと優先するから、出生率が下がっているんじゃないかなと思います。家庭内暴力で離婚した家庭への支援

について、支援する施設みたいなものは日本と同じようにあると思うんですが、離婚家庭において、例えば離婚をして家を出て行った方の親が養育費を払えない場合は、国が立て替えてくれます。そういう仕組みがあるので、離婚したからといって貧困になるというそういう心配はありません。そこも日本との一つ大きな違いかなというふうに思います。

価値観や親子間の違いは、社会全体の違いによるものだと私は思いますね。日本の社会で、みんなが同じようにと、和を重んじて、みんなと同じように生きるっていう、そういう日本の価値観と比べると、フィンランドは周りに合わせる必要があるというふうにはあまり思わないのですね。考え方が一緒だから友達、あの人は考え方違うから違うというようなことはあまりありません。

あとは、増税の心配は常にあります。年金が受け取れないかもしれないというので、皆さん個人年金に入るようになっていきます。うちの親もそうです。

私から見ると、日本の暮らし方、働き方、子育ての良い点について、私はフィンランド式っていうふうに日本と分けて考えてきたことがなくて、それぞれ自分がいいなと思ったようなやり方を取り入れて生活してきていると思います。日本の子育てで好きなのは、働きながら参加するのはなかなか難しかったんですが、学校の授業を見ることができたりとか、PTA活動そのものはとても大変だったんですが、親の顔が見えるというのが日本のかわり方の中で私は好きでした。だから、子どもが友達になった人の親と自分が友達になれるというところがすごく生活が豊かになるかなと思います。いわゆるママ友。表面的に友達だけれども、実はそうではないというかわり方は私にはできないので、今でもずっと親子で仲良しの人たちとかかわっていますが、そこにお父さんの入る余地がないっていうのがちょっと残念です。保育園とかだと

お父さんお母さんあまり関係なく一緒に育てている感じがあるので、運動会とかそういったところで、普通にお父さんともしゃべれるんですが、それを小学校で同じように子どもの友達のお父さんとお話していると、周りからすごく変な目で見られて、お父さんとはしゃべっちゃいけないという感じで、お母さんはお母さん同士、お父さんはお父さん同士っていう、何かそういうくりが日本はあるのかなというふうに感じて、そこは残念だなと思いました。

働き方で良いことというのは、私はいつもなると大変なんですけど、会社の人たちとの飲み会や、仕事関係でつながった人たちと一緒にご飯食べたりとか、そういうのはとても好きなので、そこがフィンランドにないのはちょっと寂しいです。出張でフィンランドに行ったときも、みんな「じゃあね、また明日」って言われて。「ええー、今からご飯行こうよ」って思うんですが、みんなもう「また明日ね」ってさーっと自分の家に帰ってしまって、結構孤独を感じました。

あとは、子育ての良い点ですが、私は子ども

にかかわり過ぎる、関与し過ぎるというのも良くないですけども、干渉し過ぎないっていうのも良なくて、フィンランドと日本の教育を足して2で割ったらちょうどいいのかなという気がします。子育てにおいて、私が見てきた日本のお母さんたちは、少しかかわり過ぎているのかなって思うこともあります。もうそろそろ本人の力を信じて見守る立場になったらいいんじゃないかなと思うこともあります。逆にフィンランドのお母さんたちは、私の妹なんかもそうなんですけど、甥っ子たちが中学生になったときから、もう朝ご飯を作るのを辞めたんです。「何で」って聞いたたら、「もう中学生だから自分でご飯を作れるから」って言うんです。その子たちが何を食べてるかといったら野菜を全然食べないんです。健康管理は日本のお母さんたちはすごいなと思います。ただ、力を入れ過ぎてそれで疲れちゃうっていうことがない程度でやればいいのかないかなという気はします。



講師・坂根シルックさんとこがねいパレット実行委員

こがねいパレットに賛同する団体（展示）のご紹介

（五十音順：一部除く）

アンファン （保育サポーターグループ）

【代表者】 すぎい あきこ
【TEL】 042-313-9344
【E-mail】 akiko.sugii@gmail.com



保育士有資格者が運営する保育サービスのサポーターグループです。「子育てを応援し、子供の成長を見守る“もうひとりの家族”」が活動のコンセプトです。日々子育てに奮闘するお母さん方に、たまには息抜き、リフレッシュするひと時、心を整える時間を与え、またお子さんの成長の下支えが出来たらと願って活動しています。学校行事や保護者会、ママ友とのお出掛けなどグループでの利用も可能です。おもに小金井市行政や公民館事業からの保育要請にお応えし、市内保育園や学童保育、ファミリーサポートなどでの経験を活かし、地元ならではの保育を目指しています。保育士はじめ幼稚園や小学校教員免許を持ったメンバーを中心に構成されています。アンテナオフィスは桜町いこいの家で開催される子育て支援と多世代交流サロン「みんなの家」になります。サロン開催は不定期のため、お問い合わせの上遊びにいらしてみませんか。ぜひ一度『アンファン』へご相談下さい。お待ちしております。

聞いてきいての会

【TEL】 042-301-8186（千葉）

心に届く朗読を目指して立ち上げた「聞いてきいての会」も11年目。月に2回の活動日のうち、第1土曜日は、元NHK日本語センター専門委員 風見雅章先生を講師に、ユーモアあるご指導をいただいています。第3土曜日は、会員だけで発声練習などの自主学習会を行っています。



こがねい女性ネットワーク発行「写真でたどる小金井の女性たち」DVDへの音声録音・市民がつくる自主講座「川端康成の文学～その哀しみと愛～」企画出演・「黄金ネットワークXmas会」へ出演などボランティア活動等で地域との交流も深めています。

年に一度、日頃の成果を発表する機会として、朗読会を開催し、たくさんのお客さまに楽しんでいただけるよう、練習します。お互いに切磋琢磨しあって、すてきな朗読ができるようになりたいと楽しいながらも真剣に取り組んでいます。

小金井子育て・子育て 支援ネットワーク協議会

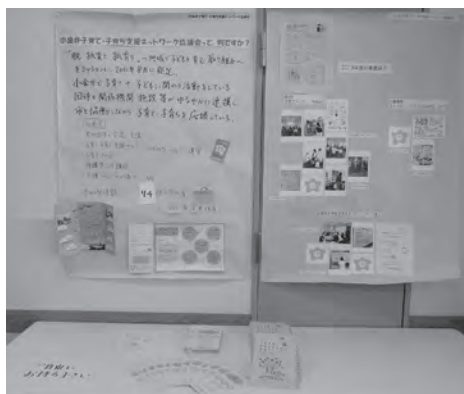
【代表者】 水津 由紀

【TEL】 080-4836-2865

【E-mail】 koganei.k.k.netwk@gmail.com

【企画・運営しているサイト】 <https://nobinovino.net/>

【フェイスブック】 <https://www.facebook.com/nobinovino/>



子育て支援や子どもに関わる活動をしているサークルや市民団体、NPO等がゆるやかにつながり、行政と連携して「地域で子どもを育てよう」と活動しています。(2011年8月設立)

小金井子育て・子育て支援サイト「のびのびーの！」の運営をはじめ、妊娠期から子育て中の保護者のための講座や交流会、子育てメッセの開催、キッズカーニバルKOGANEIへの参加、市長への提言などの事業を行っています。

今年度は、9月2日に「第5回子育てメッセこがねい」を開催し、「放課後を本気（まじ）で考えるプロジェクト」を実施。(10/14、11/18、12/9、1/20、2/17) 子どもたちの育ちについて考え、地域でどう取り組むか具体的に話し合いました。来年度は、それを実践につなげていきたいと思えます。

団体・個人参加も募集中ですので、どうぞお気軽にご連絡ください。

NPO 法人こがねい子ども遊パーク

【代表者】 邦永 洋子

【TEL】 042-201-5453

【FAX】 042-201-5453

【E-mail】 playpark@koganei-yu.net

【ホームページ】 <http://www.koganei-yu.net>

<http://blogs.yahoo.co.jp/waratotsuchi/>



子ども達には遊びの時間、仲間、場所が必要です。

子どもの自主性を育み、自然の中で自由な遊びをさせたいと冒険遊び場(プレーパーク)を運営しています。

小金井市冒険遊び場等健全育成事業の委託を受け、いけとおがわプレーパーク(東京学芸大学内(火)～(木)(土)10時から5時)、くじら山プレーパーク((金)10時から5時)に開催、だれでも遊びに来られます。

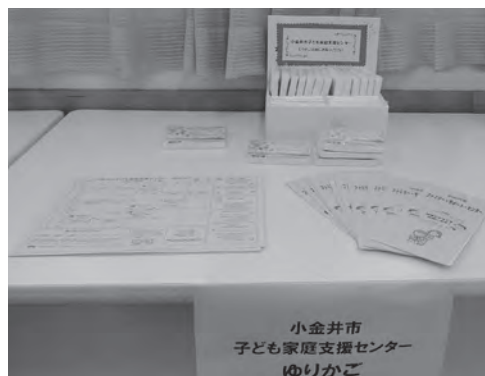
泥んこ、虫取り、木登り、秘密基地、野外調理など子どもがやってみたくて実現できるように場づくりをしています。

また、子どもの町づくり、職業体験のイベント「こどものまち・ミニこがねい」も実施しています。子どもの企画で成りたつこの遊びのではまちでは、子どもの力を信じて大人と子ども共に育つパートナーとしての大人の役割を感じます。

そのほか雪国体験や畑などの自然体験事業を通じて子どもに文化の継承をしていきたいと考えています。

小金井市子ども家庭支援センター ゆりかご

【代表者】 松藤 早由美
【TEL】 042-321-3141
【FAX】 042-321-3190
【E-mail】 mail@k-yurikago.org
【ホームページ】 <http://k-yurikago.org/>



小金井市子ども家庭支援センターゆりかごは0歳～就学前の子どもとその保護者が一緒に遊んだり、おしゃべりできるひろばです。子どもたちの成長に合わせたおもちゃや、手に取ると温もりを感じる木のおもちもたくさんあります。他に保護者向けの講座やグループワークも実施しています。ゆりかごには大勢のボランティアさんがいます。子どもたちと遊んで下さるのは勿論の事、絵本の読み聞かせやコンサートで楽しませて下さったり、講座等の保育でも力を発揮して下さい。お父さんの利用もとても多く、特に土曜日はいつも15人ほどの利用があります。おじいちゃん、おばあちゃん、これからママ・パパになる方も大歓迎です。様々な世代の方が子どもたちを真ん中につなごうと下さると嬉しいです。どうぞ、お気軽に遊びにいらして下さい。

小金井市子ども文庫サークル連絡会

【代表者】 星川 迪子
【TEL】 042-383-0870
【FAX】 042-383-0870



小金井市子ども文庫サークル連絡会を略して文庫連は、子どもたちに本やおはなしの楽しさを伝えたいと活動しています。

1972年発足し昨年46周年を迎えました。

2018年の活動は以下のとおりです。

10月 講演会 小林豊さん「絵本を通して伝えたいこと」

2019年 1月 第30回たのしいおはなしフェスティバル

2月 大人が楽しむおはなし会

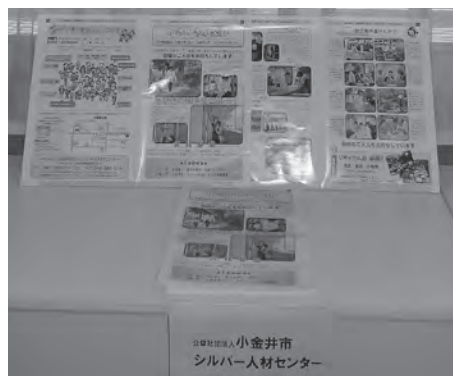
毎年市報にお知らせを出します。ぜひ御参加ください。

文庫連に所属する各文庫、サークルは、児童館、図書館での「おはなし会」や、子ども家庭支援センター、幼稚園に出向き協力しています。

絵本との楽しい出会い、面白いおはなし、怖いおはなし、考えるかがく、工作等楽しんでいます。

公益社団法人 小金井市シルバー人材センター

【代表者】 会長 杉中 清良
【TEL】 042-383-6141
【FAX】 042-385-6241
【E-mail】 silver@koganei-sc.or.jp
【ホームページ】 <http://www.koganei-sc.or.jp>



小金井市シルバー人材センターは、「高齢者等の雇用の安定等に関する法律」に基づき、国、東京都、小金井市からの支援を受けて運営されている「公益社団法人」です。

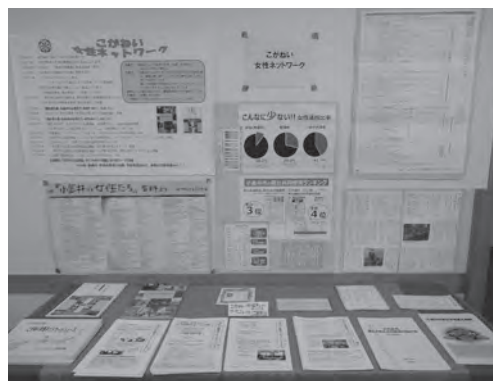
社会参加の意欲ある健康な60歳以上の高齢者が会員となり、地域社会と連携を保ちながら、希望、知識及び経験に応じた就業並びにボランティア活動等の社会貢献活動を通じて、健康で生きがいのある生活の実現と、地域社会の福祉の向上と活性化に貢献しています。

当センターの会員数は、約1,200人。事業実績は年間4億6千万円近くになり、市内の企業・市民の皆さんに役に立つべく、様々な分野の仕事を通じて生き甲斐を得ながら地域社会に貢献し、市民の皆さんから信頼をいただいています。

お仕事を依頼したい方、お仕事をしてみたい方は、お気軽にご相談ください。

こがねい女性ネットワーク

【代表者】 中村 良子
【TEL】 042-385-9755
【FAX】 042-385-9755
【E-mail】 ynkmr2005@yahoo.co.jp



暮らしを大切に、守りながら穏やかに社会とつながり、女性の視点に立った活動を通して、もっと暮らしやすい「まち」小金井をみざす市民のネットワークです。

主な活動は、

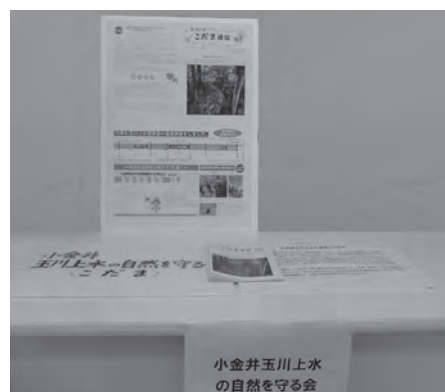
- 機関紙「こがねい女性ネットワークニュース」の発行と配布
- 小金井市男女平等推進審議会や「こがねいパレット」等、市の男女共同参画事業への参加・協力
- フォトムービー『小金井の女性たち』の普及。会の主旨に添った映画の上映会の開催
- その他、年に一度開催の市、男女共同参画室との懇談会を大切にしています。

今年度は、弱い立場の女性に寄り添う「母子父子自立支援員兼婦人相談員」について議会で陳情。引き続きその働き方を見据えながら、問題意識を深めています。また、今年の「こがねいパレット」では、男女共同参画に関する自治体調査をテーマに、女性議員の比率を表にしてみました。

「ネットワークニュース」は、各公民館分館に置いています。お手に取ってご覧ください。

小金井玉川上水の自然を守る会

【代表者】 加藤 嘉六
【TEL】 042-387-1546
【E-mail】 kodama2107kodama@yahoo.co.com
【ホームページ】 <https://kodama201803.jimdo.com>



玉川上水名勝小金井（サクラ）復活事業により、ヤマザクラの補植と、桜の生育を阻害する樹木の伐採が行われています。2014年から始まった関野橋～梶野橋区間では、ケヤキなどが「雑木」として皆伐されました。

この皆伐後は周辺住民中心に、排ガスや騒音が増え、鳥や小さな生き物たちが減ってきた、など環境の悪化を指摘する声が挙がりました。そこから、「小金井玉川上水の自然を守る会」では小金井桜だけでなく、他の樹木や生き物も大切にして欲しいとの思いで活動しています。

玉川上水の緑は、小金井に残る数少ない自然林です。全長43kmに及ぶ連続したグリーンベルトの一部でもあります。伐採が及ぼす影響を知るために、専門家の方と共に植物観察や、地表の温度測定を始めています。

NPO 法人ファミリーステーション・SACHI

【代表者】 高橋 雅栄
【TEL】 042-316-7861
【FAX】 042-316-7861
【E-mail】 info@sachimama.jp
【ホームページ】 <http://www.sachimama.jp/>



■以下の三事業部からなる子育て支援団体

1. 集う支援 = 【①事務所サロン@SACHI ②子育て支援の屋台Hei! Say!おさんぼカフェ】

子どもを遊ばせ、お茶を飲みながらのママのためのコミュニケーションの場。資格や趣味・特技を活かした「ブース」を開設でき、そこでのつながりから自己実現ができる場。当日開催場所へ

2. 届ける支援 = 【ホームスタート】

先輩ママボランティア（HV）さんによる家庭訪問型子育て支援

ママの気持ちに寄り添いながら、一緒に家事や育児をしながら（協働）おしゃべりを楽しむ（傾聴）
利用無料。就学前幼児家庭ならどなたでも利用可能。【HVは守秘義務あり】

3. やってみる = 【講座プロジェクト】

「子育てをしながら私らしく生きる」をキーワードに立ち上げたプロジェクト。

家事育児力～身の丈起業の各ジャンルを自由にチョイスして、仲間とつながりあいながら学び合い、「私らしい生き方」と「子育て」の両立を実践します。

マザーズハローワーク立川

【TEL】 042-529-7465 (森・齋藤)

【FAX】 042-524-1088

【ホームページ】 https://jsite.mhlw.go.jp/tokyo-hellowork/kyusyokusya/kyujin_kensaku/mothers_tachikawa.html



マザーズハローワーク立川は、

多摩地区で唯一の仕事と育児・家事の両立を目指す方を支援する専門のハローワークです。

- お子様連れでも利用しやすい明るく広いスペース
- 就職活動支援セミナーやパソコン講習、就活メイクアップ講習等を託児付で開催
- 毎回同じ担当者による予約相談も可能
- 授乳室、オムツ交換用のベッドあり
- 安全監視員常駐のキッズコーナー（絵本・おもちゃ）あり

ご希望の就職条件を伺い、お仕事探しのご相談・アドバイスや仕事と家庭を両立しやすい求人のご紹介を行います。応募書類の添削も行います。

☆是非、お気軽にお立ち寄りください☆

◀所在地▶立川市曙町2-7-16鈴春ビル5階 立川駅北口徒歩2分

公共交通機関をご利用ください（*駐車場・駐輪場はございません。）

◀ご利用時間▶平日10時00分～18時00分

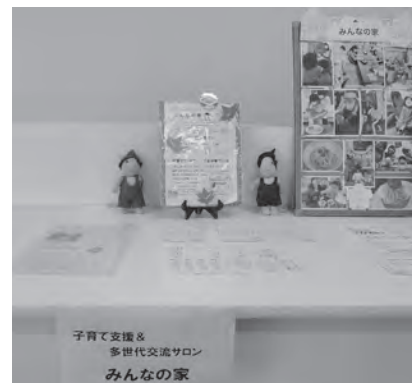
土・日曜日、祝日、年末年始はお休みです。

子育て支援&多世代交流サロン みんなの家

【代表者】 すぎい あきこ

【TEL】 042-313-9344

【E-mail】 koganei.minna.no.ie@gmail.com



子育て支援と多世代交流を活動目的としてサロンを運営しています。

コンセプトは“遠くの親戚より近くの他人”、キャッチフレーズは“大家族になろうよ”です。

多世代で子育てを応援し、お互いに「ここも居場所」と思えるサロンを目指しています。

おもに桜町の「いこいの家」で週1回、四季を味わうイベントを開催しています。

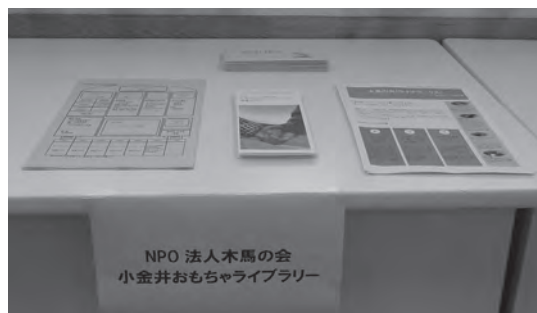
季節感を楽しむ紙芝居や読み聞かせや手遊び歌をはじめ、パネルシアターやペープサートなど、いつもと違うひと時を演出しています。

夏はとろてん突きやスイカ割り、秋はどら焼き作りや手前味噌づくり、お子さんも愉しめる落語会も開催しました。冬はデコレーションスイーツやキムチ作りなど楽しみにして頂いています。今後は参加者の希望に応えた内容やお子さんの成長を祝うようなイベントも開催して行きたいと考えています。ぜひ、一度遊びにいらしてください。

詳細は社協発行「ボランティア」やサイト「のびのびの！」などでご確認下さい。

NPO 法人木馬の会 小金井おもちゃライブラリー

【代表者】 太田 一貴
【TEL】 042-384-4231（坂口）
【FAX】 042-384-4231
【E-mail】 otoiawase@npo-mokuba.org
【ホームページURL】 <http://npo-mokuba.org>



「NPO法人木馬の会」は障害をもつ人々の自立を支援し地域で共に暮らすために幅広く活動を行っています。

＜小金井おもちゃライブラリー&こども相談室＞では、発達やコミュニケーションに心配、障害のある方にむけた、個別の相談・療育指導、音楽や余暇の活動、コミュニケーション指導のグループ、＜小金井おもちゃライブラリー学童クラブ＞では、特別な支援が必要なお子さんへの放課後等デイサービス事業、＜ライブワークス＞では、障害をもつ方の働く場、就労継続支援B型の活動を行っています。

地域の方々や育児サークル等へおもちゃの貸し出しや、遊び場として＜おもちゃ図書館＞も開催しています。武蔵野公園や野川に近い自然の豊かな場所です。ぜひお問い合わせ、お立ち寄りください。

NPO法人らくビット

【代表者】 大橋 元明
【TEL】 042-407-2440
【E-mail】 ask@racoubit.org
【ホームページ】 <http://racoubit.org>



NPO法人らくビットは、5千円の名刺サイズ・多機能パソコン・Raspberry Pi（ラズパイ）と無料のオープンソースソフトを使った事業を展開しています。30代～80代の老若男女が集い、楽しく学び・教えあう多世代交流の場となっています。

2020年から小学校で必修化されるプログラミング教育には地域の支援が不可欠です。それに備え、らくビットでは世界中で最も普及しているビジュアル・プログラミング言語Scratch（スクラッチ）の大人向けのプログラミング学習会、電子工作学習会およびロボット学習会、さらに小学生向けのプログラミング教室を毎週開催しています（詳細はらくビットのホームページ参照）。これらに参加している高齢者はますます元気になり、プログラミングは認知症予防・健康維持に役立っているようです。

お子さんやお孫さんと一緒に楽しめるScratchプログラミングを始めませんか。

企画政策課男女共同参画室

【TEL】 042-387-9853

【FAX】 042-387-1224

【E-mail】 s010303@koganei-shi.jp

【ホームページ】 <http://www.city.koganei.lg.jp/kakuka/index.html>



小金井市企画政策課男女共同参画室では、①男女平等意識の育成のため、②男女平等社会の実現をめざし行動計画を総合的かつ計画的に推進するため、以下の事業を行っています。

《男女平等意識の育成》

- 1 こがねいパレットの開催
- 2 男女共同参画情報誌「かたらい」の発行
- 3 男女共同参画シンポジウムの開催
- 4 女性総合相談事業の実施
- 5 再就職支援講座の開催
- 6 男女平等都市宣言普及啓発冊子の発行 など

《行動計画の推進》

- 1 男女平等推進審議会の開催
- 2 苦情処理窓口及び男女平等苦情処理委員の設置
- 3 緊急一時保護施設運営費補助金の交付 など

第32回こがねいパレット アンケート結果

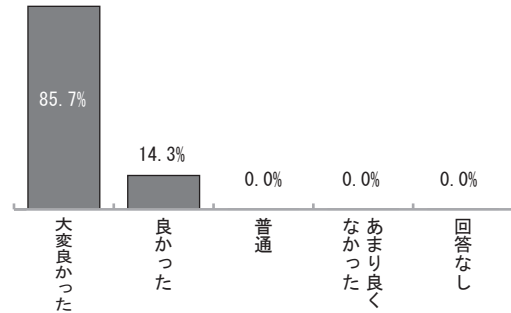
参加者数：70名（女性55名、男性15名）

回答者数：49名 回収率：70.0%

1 企画の感想

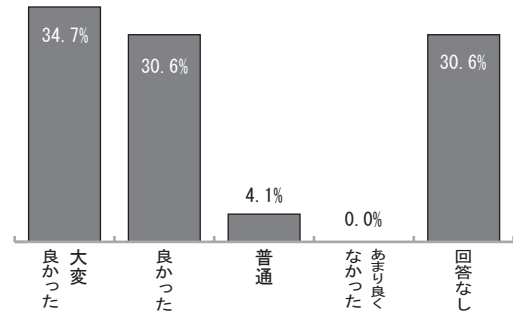
講演について（前半）

大変良かった	42人	85.7%
良かった	7人	14.3%
普通	0人	0.0%
あまり良くなかった	0人	0.0%
回答なし	0人	0.0%
合計	49人	



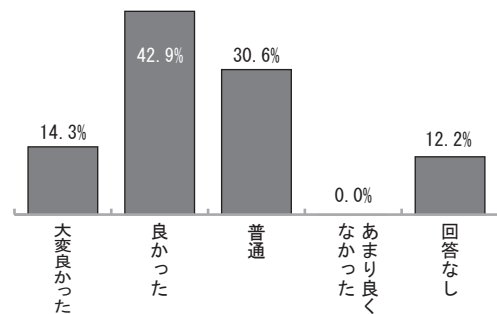
質疑応答について（後半）

大変良かった	17人	34.7%
良かった	15人	30.6%
普通	2人	4.1%
あまり良くなかった	0人	0.0%
回答なし	15人	30.6%
合計	49人	



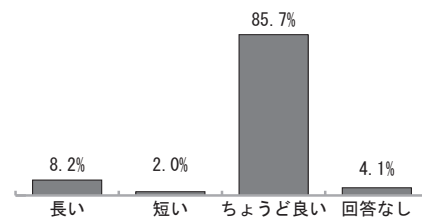
団体展示について

大変良かった	7人	14.3%
良かった	21人	42.9%
普通	15人	30.6%
あまり良くなかった	0人	0.0%
回答なし	6人	12.2%
合計	49人	



講演時間について

長い	4人	8.2%
短い	1人	2.0%
ちょうど良い	42人	85.7%
回答なし	2人	4.1%
合計	49人	



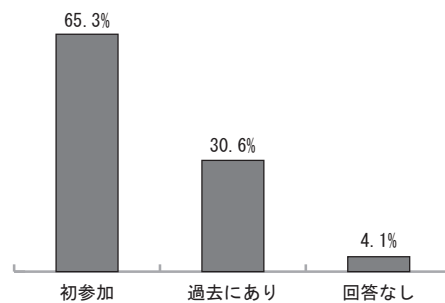
◆講演については、70名の参加となり、アンケート回答者全員が「大変良かった」または「良かった」との回答であった。

講演時間については、「ちょうど良い」が85.7%で、適正な時間と考えられる。

2 こがねいパレットについて

こがねいパレットの参加回数

初参加	32人	65.3%
過去にあり	15人	30.6%
回答なし	2人	4.1%
合計	49人	

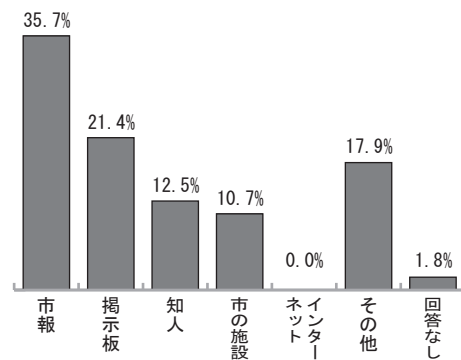


◆今回のこがねいパレットでは、「初めて参加した」との回答が多く、今までに、こがねいパレットに参加していない市民に対して、市の男女共同参画施策を啓発することができた。

なお、「過去に参加したことがある」の内訳は、「3回」が3人、「6回」「5回」「4回」「2回」がそれぞれ2人、「ほぼ毎回」「20回目」「15回目」「10回目」がそれぞれ1人となっている。

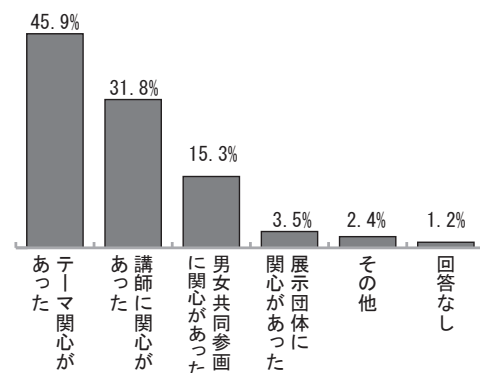
知ったきっかけ（複数回答可）

市報	20人	35.7%
掲示板	12人	21.4%
知人	7人	12.5%
市の施設	6人	10.7%
インターネット	0人	0.0%
その他	10人	17.9%
回答なし	1人	1.8%
合計	56人	



参加したきっかけ（複数回答可）

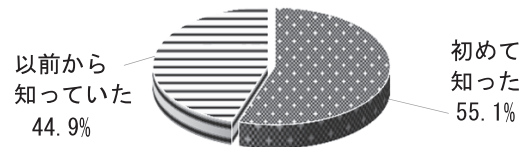
テーマ関心があつた	39人	45.9%
講師に関心があつた	27人	31.8%
男女共同参画に関心があつた	13人	15.3%
展示団体に関心があつた	3人	3.5%
その他	2人	2.4%
回答なし	1人	1.2%
合計	85人	



◆「テーマに関心があつた」という回答が最も多く、45.9%であった。また「講師に関心があつた」という回答も31.8%と高かった。今回のテーマ及び講師が、来場者の興味を引き、参加者が多数となったことが伺える。

こがねいパレットは、男女平等意識を地域で育てていく行事であるを知っていたか

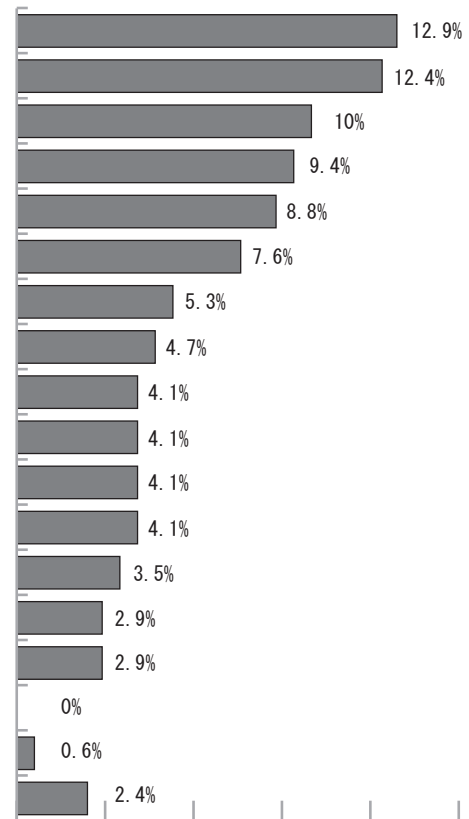
初めて知った	27人	55.1%
以前から知っていた	22人	44.9%
回答なし	0人	0.0%
合計	49人	



◆「初めて知った」との回答の割合が高く55.1%であり、男女平等意識啓発の一助となった。

男女共同参画で興味あるテーマ（複数回答可）

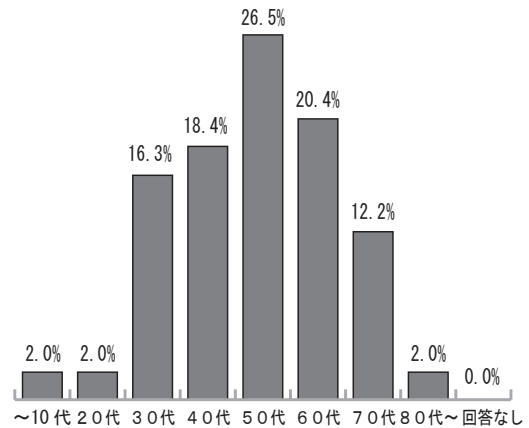
子育て	22人	12.9%
ワーク・ライフ・バランス	21人	12.4%
働き方（就労）	17人	10.0%
教育	16人	9.4%
生き方	15人	8.8%
暮らし	13人	7.6%
健康	9人	5.3%
人権（DV防止等）	8人	4.7%
ジェンダー	7人	4.1%
家庭	7人	4.1%
生活	7人	4.1%
介護	7人	4.1%
多様性尊重	6人	3.5%
地域活動	5人	2.9%
法制度	5人	2.9%
防災	0人	0.0%
その他	1人	0.6%
回答なし	4人	2.4%
合計	170人	



3 参加者について

年齢

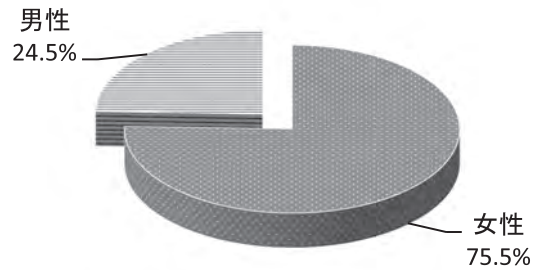
～10代	1人	2.0%
20代	1人	2.0%
30代	8人	16.3%
40代	9人	18.4%
50代	13人	26.5%
60代	10人	20.4%
70代	6人	12.2%
80代～	1人	2.0%
回答なし	0人	0.0%
合計	49人	



◆「50代」、「60代」の参加者が最も多かった。一方で「20代以下」の参加者が2人と少なかった。

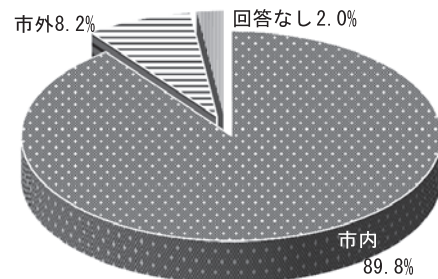
性別

女性	37人	75.5%
男性	12人	24.5%
回答なし	0人	0.0%
合計	49人	



居住地

市内	44人	89.8%
市外	4人	8.2%
回答なし	1人	2.0%
合計	49人	



市内内訳

前原町	8人
貫井南町	8人
緑町	6人
本町	5人
東町	5人
中町	4人
貫井北町	3人
梶野町	2人
桜町	1人
不明	2人

市外内訳

小平市	2人
府中市	1人
練馬区	1人

4 ご意見（自由記入）

- ・元々、海外の暮らしに興味があったので、今回参加できて良かったです。日本とフィンランドの違いが色々わかり、興味深かったです。(40代)
- ・自然な優しい語り口に、教養あふれる内容でとても充実した時間を過ごさせて頂きました。日本で生きづらさを思い、フィンランドのようなライフバリューを持って生きていける日本社会になって欲しいと願ってます。(40代)
- ・楽しかったです。フィンランド流のやり方にも、あたり前ですが課題があることにほっとしました。ただ、養育費の課題は本当に重要なので、日本も早く手厚くなってほしいと思いました。(30代)
- ・オンとオフのメリハリをつけるというのは、私も意識したい。家族との時間も確保するように心がけたいと改めて思いました。(30代)
- ・子どもを連れて参加しました。坂根さんからは子育てのヒントをたくさんもらいました。(30代)
- ・背景などもお話し頂き、広い視野でフィンランドのことを伺えました。暮らし方や価値観について自己確認をしたり、子育てについての今のやり方を見直そうと思えました。先生の個人としての意見が正直で、受け取りやすかったです。(40代)
- ・日本人は、フィンランド人と気質が似ているようで、親近感がわきました。フィンランドの子育て教育について興味があるので、もっとお話を聞きたかったです。今日はとても楽しいお話を聞いて良い1日でした。ありがとうございました。(30代)
- ・フィンランドと日本の暮らし方、生き方、考え方に違いはあるけど、意外と共通するところもあるんだなと思いました。働き方、子育てについての考え方は違いが多くあるなと思いました。“人は人、自分は自分”“互いの違いを認め、ありのままを受け入れる”“「自分の人生」を楽しむ”など素敵な考え方だと思いました。(30代)
- ・日本とは異なる国の生活観を聴くことができ、とても貴重な時間を過ごすことができた。自身の生活を振り返る・客観的に捉えるには、とても良い機会だと思う。また、このような機会を作っていただきたいと思う。(20代)
- ・日本の教育システムに苦しさを感じ、「自分らしく生きる」子どもも教師も減っています。教育に危機感を感じています。同じテーマで他国（主にヨーロッパ）の方のお話を聞きたいです。(40代)
- ・福祉だけではなくフィンランドの歴史も知ることができてよかったです。戦争の影響、負の歴史と女性の自立の関係も興味深かったです。沈黙を好むって大事な事ですね。大切にしたいと思いました。(60代)

- ・シルックさんの話は2度目でしたが、楽しかったです。フィンランドの産業や軍事のことも聞きたかったのですが、今日はパレットなので、仕方ないです。久しぶりにちゃんと男女共同参画、男女平等のことを聞いたパレットでした。よかったです。(60代)
- ・内容の濃い素晴らしい講演会でした。参加してよかったです。ありがとうございました。小学校の間、のびのびとしていた生徒が、中学に入ると成績や入試を意識し、よりよい高校に入らなければと思うようになり、“どんな自分になりたいか”を考える時間ありません。日本の教育システムを改革するのは、難しいことですが、フィンランドの教育システムは、先生のクオリティが高いことで成立していると聞いています。日本の先生たちの意識を変えることだけでも、生徒を生き生きと生かせることができるのではと思います。また講演などお聞きする機会を楽しみにしています。(50代)
- ・多くの方々が、気になる、知りたいということをテーマにした講演でとても良かったと思います。企画した方々の熱意を感じました。聞いた方々が、自分の課題と結びつけ、一歩前に進めるヒントがたくさんあったと思います。シルックさんの「自分でいいなと思ったやり方を取り入れてきた」という言葉が印象的でした。「わたし流、自分らしく生きるヒント」だと思いました。(50代)
- ・美しい日本語で、フィンランドと日本の生き方の違いをわかり易く話していただき、とても参考になった。小さな（人口550万人）国だからできるなどとあきらめず、日本も一歩でも近づけるように、地域のくらしの中で工夫すべきだと思った。すばらしい催しを企画してくださり、ありがとうございました。(60代)
- ・すばらしい講師のすばらしい講演内容に元気をいただきました。フィンランドの様子が、何もかも理想的に思えました。若ければ、フィンランドに行ってみたかった。すばらしい企画をありがとうございました。お話もわかり易く無駄がなく、お人柄も感じられ、楽しかったです。歯切れの良い日本語も耳が遠くなっている者にとっては、とても有難いものでした。感謝のみです。良い時間でした。(70代)
- ・とても素敵な方で、貴重なお話をたくさん伺えて、よい時間を過ごすことができました。よい企画をありがとうございました。(50代)
- ・ムーミンが大好きで、フィンランドの生活を知る事ができて、良かったです。フィンランドに是非行きたいです。また、フィンランドの話を直接、フィンランドの方に聞いた事がうれしかったです。(50代)
- ・本日は参加させていただきありがとうございました。フィンランドの方に直接お話を聴くことができ、とてもいい時間が過ごせました。子離れ、親離れがなかなかできていなく、恥ずかしい気持ちで一杯です。少しずつ、そういう時間、機会を作ってまいります。また、お話を聞ける機会を楽しみにしております。是非、機会をお作り願います。宜しくお願い申し上げます。(60代)

- ・会場の温度が寒かった。カメラで撮影している人たちが目立った。トイレについて詳しい案内があったのは良かった。(50代)
- ・坂根シルックさんの講演を非常に楽しく聞きました。フィンランドにいるような気分になり、フィンランドに住んでみたいくなります。ありがとうございました。(80代)
- ・机がないと個人の持ち物を置く場所がない中で、メモを取ったりアンケートを記入するのが大変です。私も人生の1/3を外国で住み、働いていたものです。若い時に異文化に接した経験は、自国に戻った後の生活に大変役立つことを実感しています。(70代)
- ・フィンランドが身近になりました。子育ての仕方など、日本が学ぶべきことがたくさんありました。(60代)
- ・人口550万人という小ささが、隅々まで意志統一できる。日本と同じと考えてはダメだと思う。日本は20倍以上の人口。議論があらゆる場であるのが羨ましい。日本は政治的活動ダメ、男女の席では女は「知らない」「できない」がよしとされる日本の風土では難しい。フィンランドは学校で議論が多いというが、1クラスの人数は何人だろうか。日本は1クラス40人。議論などとてもできない。考え方として良いと思う事は多々あったが、日本で即できるかどうかは、意識の変化、時間が必要。(70代)
- ・シルックさんのお話は、とてもわかり易く良かったです。フィンランドと日本との差がわかり良かったと思います。(60代)
- ・「平等であるべき」といった教訓的な意識からではなく、それぞれが生きたいように生き、結果として調和が取れている社会が理想。そんな活動方針で臨んでいただきたいです。(70代)
- ・フィンランドの歴史など初めて知る事が多く、大変勉強になりました。特にフィンランド人の性格については興味深かったです。日本も今後、ますます、様々な国の人たちと共有する社会になっていくと思います。また次回は、坂根先生個人の子育てのお話などを聞かせていただけたらうれしいです。本日はどうもありがとうございました。(50代)

などさまざまなご意見をいただきましてありがとうございました。

実行委員の感想、実行委員会の開催記録

実行委員長 金ヶ江 博紀

今年度で32回目を迎えるこがねいパレットに、私は2年目の実行委員として参加しました。今回の坂根シルックさんの講演の内容は、すべて新鮮で興味深く、非常に勉強になりました。また、何よりも坂根シルックさんの気配りと人柄の良さを感じ取ることができました。講演いただいた坂根シルックさん、講演会に参加された皆様、事務局の皆様、そして、同じ方向性で一緒に活動したパレット実行委員の皆様。本当にありがとうございました。

副実行委員長 北脇 理恵

以前、北欧の方から「1日24時間を8時間ずつに分けて3つで考える。1つは睡眠、1つは仕事、1つは自分・家族・趣味の為の時間にする。」と聞いたことがありました。その話は『有限の中で出来る事をする、大切なもの為にも切り替えも大事』と、シンプルに考えるヒントをくれました。この素敵なヒントをくれた北欧の話をついパレットで企画したいと思い、2年がかりで提案し、ようやく採用されました。

さて、話を聞いた皆さまは何を感じましたでしょうか？

皆様からの質問が書かれたメモを読み上げなら、感じ方の多様さに驚きました。話を聞き感じることは人それぞれ違いますが、北欧の話からヒントをもらい、少しでも日常に活かして頂けたなら嬉しいです。

副実行委員長 杉井 亜紀子

今回で実行委員は2度目で、副委員長と司会を担当させて頂きました。子供の高校の謝恩会以来の司会でしたが、適度な緊張感を味わえ、達成感も感じる事が出来、皆様に感謝申し上げます。また、坂根シルックさんにご登壇頂いたのも光栄でした。Kiitos!

ヘルシンキでママ友だったご縁があり、講演をお聞きしながら、シンパシーを感じる国民性を懐かしく思い出しました。フィンランド語のテキストに、喜怒哀楽の表現とイラストの男性の4つの表情がほぼ変化なしというジョークが書かれていたり、日本語とフィンランド語は言語的に共通点があったり、遠いようで実は一番近いヨーロッパです。

今回の講演後半に付箋を使った準参加型のQAを展開しましたが、大勢の参加者の皆さんが講演を楽しんで下さったようで、これも大成功だったと思います。

実行委員 赤石 栄里子

今回、初めて実行委員をさせていただいたことはとても貴重な経験になりました。

それぞれ違う年代、職歴の方々から色々なアイデアやテーマの意見が出て「もっとこうした方が良くなる」という熱のこもった会議を重ねることにとっても良い刺激を受けました。

また、講師の方のお話しはとても正直で興味深く素晴らしいもので、フィンランド流のいいところを上手く取り入れられたら、もっと「ヒュッゲ」な暮らしが出来るのではと個人的にとってもワクワクしています。

事務局、メンバーの方々、講師の坂根シルックさんに感謝いたします。ありがとうございました。

実行委員 川原 美紀

今回は男性委員も2名に増え、子育て世代ママばかりでなく年齢層も幅広く、活発な意見交換にとっても刺激を貰え、有意義な時間になり、職員、委員の皆様に感謝しております。

北欧の子育てや女性の活躍など以前からとても興味があり、お話を聴いて日本でもフィンランドでもそれぞれに問題も抱えていて、周りからは良く見える国でも、色々あるのだなーと現実が解りました。

フィンランドの豊かな文化や考え方を、日本、ここ小金井での生活にも皆で取り入れていけたらより素敵になるなぁと思えました。

実行委員 佐藤 宮子

縁あって、本当に久しぶりの「こがねいパレット実行委員会」へ参加しました。年齢差を感じず、新鮮な気持ちで取り組むことができ嬉しかったです。当日、実行委員として、講演会の準備段階から会場にいたので、展示団体の方ともお話しする時間が持てたのもよかったです。

講師のシルックさんの魅力によるところも多いとは思いますが、男女共同参画ということ、あまり構えずに、視野を広げるような形で伝えられたのではないかと思います。ありがとうございました。

実行委員 仁木 真希

講師選びから講演会後の片付けまでの一連の作業を体験させていただき、講演会開催の流れがよく分かりました。講演会の裏側には様々な人の想いと事務作業が詰まっている(笑)。楽しい半年間でした。どうもありがとうございました。

実行委員 山本 紘衣

地元の方が市民目線で講座を開催できるって、いいなあと思います。今回は体調不良でなかなか参加が出来ずに、皆様にご迷惑をおかけしました。万全な体制になったら、また参加したいと思います。ありがとうございました。

実行委員 吉田 孝

「こがねいパレット」7年振りのカムバックでしたが、今年度のメンバーはしなやかなかつフレキシブルな感性の持ち主が勢揃い！

テーマは、今年度第32回を迎えて初めて国際色豊かなものとなりました。近年益々国際社会へと移行する中、男女共同参画社会のあるべき姿を海外、特に北欧と比較しつつ、その暮らし方、働き方、子育てを探る講演会でした。

終了後、参加者から後半の講師とのQ&Aも含め、好感を持ったコメントを数多く頂き、企画した一人として感謝する次第です。

<実行委員会の開催記録>

- 第1回 5月15日
- 第2回 6月6日
- 第3回 6月15日
- 第4回 6月27日
- 第5回 7月5日
- 第6回 7月19日
- 第7回 10月17日
- 第8回 11月1日
- 第9回 11月11日
- 第10回 12月12日
- 第11回 1月29日



第32回こがねいパレット実行委員

「こがねいパレット」開催の足跡

「こがねい女性フォーラム」(第1回～第14回) から 「こがねいパレット」(第15回～) へ

回・開催日	テーマ・内容
第1回 1987年 12月5日(土)	女性と福祉 シンポジウム コンサート／はしだのりひこ 展示／婦人団体・グループ作品、老人等の介護器具 こども分科会
第2回 1988年 11月12日(土) 13日(日)	女と男でつくる地域のネットワーク 分科会／「老後の問題」「子育ての問題」「働く女性の問題」「こども分科会」 講演／斉藤茂男「これからの家庭と女性の生き方」 コンサートの横井久美子 展示／婦人団体・グループ作品、老人介護器具・用品
第3回 1989年 パートⅠ 7月8日(土) パートⅡ 9月16日(土) パートⅢ 11月26日(日)	こんな生き方してみたい 映画／「TOMORROW 明日」 コンサートの読売交響楽団 絵画展／淀井彩子 写真展／渡辺幸子 講演／ヤンソン・由美子「女にも男にも住みよい社会とは」 分科会／「高齢者」「子育て」「働く女性」 展示／婦人団体・グループ、老人等の介護器具・用品
第4回 1990年 パートⅠ 4月21日(土) パートⅡ 9月8日(土) 9月9日(日)	愛を生きる 女性議員に聴く／「議員として今、感じていること」 映画／「黒い雨」 小金井市婦人行動計画推進状況報告会 交流会 分科会／「家族」「地域」「自然」 シンポジウム／吉武輝子「愛を生きる」 展示／婦人団体・グループ、応募作品「愛を生きる」、老人等の介護器具用品
第5回 1991年 パートⅠ 4月13日(土) パートⅡ 11月17日(日)	仕事も家庭も楽しみたい 講演／来栖琴子 コンサートの読売交響楽団 講演／宝井琴桜「残ったのこった夢話」 シンポジウムの中島通子 分科会／「出生率1.21%」「女性の就業率56.9%」「高齢化率10.5%」 展示／等身大女性の人体模型
第6回 1992年 パートⅠ 4月25日(土) パートⅡ 11月1日(日)	わたして地球人—もっと知りたい世界のくらし— コンサートの日本のうたと民族音楽 エスニック・ティーパーティー 映画／「サンダカン八番娼館 望郷」 シンポジウムの福島瑞穂「アジアの女性と人権」
第7回 1993年 パートⅠ 4月25日(日) パートⅡ 10月1日(金)～3日(日) 10月3日(日) 10月9日(土)～17日(日) 10月16日(土)	男と女でつくる地域のネットワーク 福祉バラエイトーク／高瀬 毅 ペーパーサート／「2001年 小金井さん一家の憂うつ」 分科会／「老いを支える手が女性専科にならないために」「住宅から見る住宅ケア」 「性の話をしてみませんか」 多摩をひらこう、女性の力で(中央線沿線8市合同女性フォーラム統一テーマ) 作品展／絵画、写真 トーク／南伸坊「女性と芸術」 交流会 美術展／「多摩・女性美術—いのち・色・かたち—」 美術講話／田中田鶴子「画家から見たヨーロッパ文化の源流」
第8回 1994年 パートⅠ 11月6日(日) パートⅡ 1月28日(土)	家族ってなあに? 女性にとっての先進国ってなあに? コント／「家族アラカルト」—で、あなたの場合は?— トーク／沖藤典子「女性の老後と家族」 深江 誠子「ひとりでも家族・いろんな家族」 講演／北沢洋子「アジアの女性と日本」 報告／女性海外派遣事業 パネルディスカッション
第9回 1995年 11月12日(日)	女が変わり、男が変わる—それぞれのライフステージから— コント／ステージⅠ宮迫 千鶴「つくられる『女の子らしく』『男の子なのに』」 ステージⅡ青山 南「共に育つとき」 ステージⅢ吉武 輝子「魅力のあるシニア世代へ」

回・開催日	テーマ・内容
第10回 1996年 11月10日(日)	男女平等宣言！？ 1部「サークル・団体等の発表・展示」「ミニコンサート」「男女平等都市宣言(案)の発表」 2部 分科会／Ⅰ.吉田 英子「みえていますか？教室の中」 Ⅱ.中島 通子「結婚が変わり、離婚も変わるそして、相続も…」 Ⅲ.吉田 清彦「CMウォッチングメディアに見る女と男」
第11回 1997年 11月9日(日)	男女平等都市宣言—絵にかいたモチにさせるな— 講演／吉永みち子「自己実現時代の女・男」 女性議員に聞く みんなでトーク&トーク
第12回 1998年 11月8日(日)	わたしのまちで第一歩 講演／残間里江子「わたしのまちで第一歩」 分科会／「男の分科会—あなたの居場所は??—」 「アッ!とおどろく年金のしくみ」「不平等とは感じませんか」
第13回 1999年 11月7日(日)	ジェンダー落語がやってくる—とにかく笑って大発見— 落語／桂 文也 ジェンダートーク／桂 文也 ジェンダー川柳・ジェンダーこぼなしの発表 展示／地域グループ
第14回 2000年 12月3日(日)	ドラキュラとラパンがくる日—子どもといっしょにジェンダーさがし— 人形劇／あとりえ MOON 絵本の読みきかせ／はちのへウィメンズアクション
第15回 2001年 12月2日(日)	家族の悩み解決講座—支えあって生きる— 講座／鹿島 敬 展示／地域グループ
第16回 2002年 11月16日(土)	知っていますか？男の子のキ・モ・チ 気づいていますか？つくられた「男らしさ」 男はつらいよ体験談 プレイバックシアター／北村 年子 JICAPTグループ 報告／初デートアンケート 展示／地域グループ
第17回 2003年 12月7日(日)	婚なコン あんな婚 インタビュー／婚・こん・コン・KON グループトーク／いろいろ婚 展示／地域グループ
第18回 2005年 1月16日(日)	あなたが裁判員になる日 ～ドメスティック・バイオレンス殺人未遂事件～公会堂が一日法廷に変身… 「裁判員制度」って知っていますか？「裁判員」ってどんな役目？ 模擬裁判劇→評議(裁判員役市民6名)→判決(参加者全員)で体験。
第19回 2005年 12月4日(日)	パレットパーク ～いろいろな人が いろんな色のまま～ 大人も子どもも一緒に楽しく遊びながら男女共同参画について考えてもらおうと、市内の様々な団体に協力してもらい、初の来場者体験型のパレットを企画 映画「ベアテの贈り物」上映、絵本のよみきかせ、工作コーナー、点訳体験、パフォーマンス、スタンプラリー(男女共同参画に関する問題を出题) 展示／絵手紙、市内協力団体
第20回 2006年 11月19日(日)	ウチの愚妻が… どう感じますか？ このコトバ ・緊急討論!「言葉にかくれたジェンダー」 ・落語&トーク「女流真打 古今亭菊千代のみる落語の世界の男と女」 ・手に食を「男だらけの料理教室」 ・カントリーコンサート ・市内協力団体の展示 ・チャリティーバザー ・点字体験等
第21回 2007年 11月4日(日)	ひとり ひとりが 大切 女性と障害のある方の自立、人権について取り組み ・実行委員会からのメッセージ ・映画「筆子・その愛—天使のピアノ—」上映 ・バザー ・展示／滝乃川学園資料パネル ・市民活動団体による展示と説明
第22回 2008年 12月13日(土)	団塊の世代 いざ地域デビュー! ～セカンドステージはどんな色?～ 講演／林 望 「団体世代への応援歌」 トーク／川合 彰、長森 眞、林 望 「トーク The セカンドステージ」 ～市内で活動する方の「My 地域デビュー」を聞く～ リレーアピール／地域デビューサポーターズ 展示&交流／地域デビューサポーターズ、こがねいパレットに賛同する団体

回・開催日	テーマ・内容
第 23 回 2009 年 11月15日 (日)	伝えよう 受けとめよう 心のことば 講演／山根 基世 「もう一度考えたい ことばの力」 即興劇 (プレイバックシアター) / 出演「にじのわ」 ～あなたのことばを形にする あなたの思いを再現する みんなと創る即興劇～ 展示／こがねいパレットに賛同する団体
第 24 回 2010 年 12月5日 (日)	パパの子育て よーいドン! ～家族もパパもハッピーに～ 講演／小崎 恭弘 「みんなで子育てを楽しめる社会をめざして」 しゃべり場／アドバイザー 小崎 恭弘 パネリスト 子育て中のパパ、ママ、孫育て中のおじいちゃん 展示／こがねいパレットに賛同する団体
第 25 回 2011 年 11月26日 (土)	夫婦を楽しむ イマドキの結婚 & 夫婦実態報告 小金井のご夫婦いらっしゃ～い! パートナーはどこまで知ってる? ゲーム トークセッション「夫婦を楽しむためのアレコレ」 展示／こがねいパレットに賛同する団体
第 26 回 2012 年 11月18日 (日)	ステキな女性・ステキな男性 ～気持ちも体も美しく、オシャレに生きる～ 講演／1部 池上 陽子 「亭主改造計画」 2部 山田接骨院スタッフ 「しなやかな ^{カラダ} 身体にリフレッシュ!」 展示／こがねいパレットに賛同する団体
第 27 回 2013 年 11月10日 (日)	ビューティフルママの時間割 ～子育てと仕事をおいしく Mix～ 講演／「こどもはみんなアーティスト! 育児をしながら夢をつくる～映像作家の日常と奮闘」 ワークショップ／「ハンドタオルで動物園をつくろう!」 ※講師 若見 ありさ (講演・ワークショップ) 展示／こがねいパレットに賛同する団体
第 28 回 2014 年 11月16日 (日)	ゆる家事って、なあに? ～今の暮らしに魔法をかけよう～ 講演 1部／「暮らしを変えよう! ゆる家事レッスン」 講演 2部／「野菜を食べよう! ゆるベジ料理」 ※講師 浅倉 ユキ 展示／こがねいパレットに賛同する団体
第 29 回 2015 年 11月8日 (日)	ストレスに対処するしなやかなココロの作り方 講演前半／「ストレスに対処するしなやかなココロの作り方 講義」 講演後半／「ストレスに対処するしなやかなココロの作り方 実践」 ※講師 石井 朝子 展示／こがねいパレットに賛同する団体
第 30 回 2016 年 11月12日 (土)	幸せを呼ぶ 10秒そうじ ～掃除をしたくなるお話を聞きにきませんか?～ 講演／幸せを呼ぶ 10秒そうじ ～掃除をしたくなるお話を聞きにきませんか?～ ワーク／ブロックワーク等 ※講師 白坂 裕子 展示／こがねいパレットに賛同する団体
第 31 回 2017 年 11月23日 (木・祝)	地球を歩いて感じた家族のカタチ グレートジャーニー探検家が考えるいきいきとした暮らしとは? ※講師 関野 吉晴 展示／こがねいパレットに賛同する団体
第 32 回 2018 年 11月11日 (日)	フィンランド流 自分らしく生きるヒント ～暮らし方、働き方、子育て～ 前半／講演 フィンランド流 自分らしく生きるヒント ～暮らし方、働き方、子育て～ 後半／質疑応答 (質問カードとホワイトボードを使った参加型) ※講師 坂根 シルック 展示／こがねいパレットに賛同する団体

第32回こがねいパレット

実行委員会（五十音順）

赤石 栄里子 ◎金ヶ江 博紀 川原 美紀 ○北脇 理恵 佐藤 宮子
○杉井 亜紀子 仁木 真希 山本 紘衣 吉田 孝

（◎委員長 ○副委員長）

参加団体（五十音順）

アンファン（保育サポーターグループ）	聞いてきいての会
小金井子育て・子育て支援ネットワーク協議会	NPO 法人 こがねい子ども遊パーク
小金井市子ども家庭支援センターゆりかご	小金井市子ども文庫サークル連絡会
公益社団法人 小金井市シルバー人材センター	こがねい女性ネットワーク
小金井玉川上水の自然を守る会	NPO 法人 ファミリーステーション・SACH I
マザーズハローワーク立川	子育て支援&多世代交流サロン みんなの家
NPO 法人 木馬の会 小金井おもちゃライブラリー	NPO 法人 らくビット

手話通訳 小金井市登録手話通訳者連絡会

保 育 大嶺 あけみ 砂押 恵子 高橋 幸子

ポスター・記録集表紙デザイン 北脇 理恵

※古紙を配合しています。ごみの減量、資源の有効活用にご協力ください。

平成8年12月3日
告示第99号

男女平等都市宣言

私たちは、誰もが人間として尊ばれ、また、自らの個性にあった生き方を自由に選択できる社会を願っています。

そのため、個人の尊厳と両性の平等を基本理念として社会的、文化的、歴史的な性差を排し、職場、家庭、学校、地域などすべての領域での真の平等をめざして、ここに「男女平等都市」を宣言します。

- 1 私たちは、人権を尊重し、互いの性を認め支えあい、いきいきと充実した人生がおくれる男女平等の「小金井市」をめざします。
- 1 私たちは、一人ひとりが共に個性や能力を発揮し、社会のあらゆる分野に男女が共同参画できる「小金井市」をめざします。
- 1 私たちは、男女が共にかげがえのない地球の環境を守り、平和と平等の輪を世界へ広げる「小金井市」をめざします。

第32回こがねいパレット記録集

平成31年(2019年)3月

発行 小金井市
編集 第32回こがねいパレット実行委員会
企画財政部企画政策課男女共同参画室
〒184-8504 小金井市本町6丁目6番3号
電話 042(387)9853